3-062-473-**04** (1)

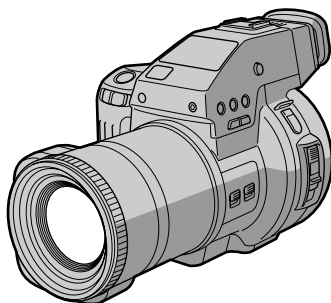
デジタルスチルカメラ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

Mavica

MVC-CD1000

必ずお読みください

本機は8 cm CD-Rをメディアとして使用するデジタルスチルカメラです。なお、本書では8 cm CD-Rをディスクと表記しています。
使用できるディスクについては12ページを、ディスクの取り扱い上のご注意については64ページをご覧ください。

- 確実な記録のためには、マビカディスク*をおすすめします。
- データの書き込み中は、ACCESSランプが赤く点灯します。この間は本体に振動や衝撃を与えないでください。

* マビカディスクとは、Mavicaロゴの入った8 cm CD-Rのことです。

ためし撮り

必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。

画像の互換性について

本機は、日本電子工業振興会にて制定された統一規格“ Design rule for Camera File system ”に対応しています。

撮影内容の補償はできません

万一、カメラなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、撮影内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

レーザー安全基準について

この装置は、レーザーに関する安全基準（IEC60825-1）クラス1適合のデジタルスチルカメラです。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

本機に振動や衝撃を与えないでください！

誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、ディスクが使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。

液晶画面およびファインダー、レンズについて

液晶画面は非常に精密度の高い技術で作られています。
黒い点が現れたり、赤や青、緑の点が消えないことがありますが、故障ではありません（有効画素99.99%以上）。これらの点は記録されません。
液晶画面やファインダー、レンズを太陽に向けたままにすると故障の原因になります。
窓際や屋外に置くときはご注意ください。

湿気にご注意ください！

雨の日などに屋外で撮影するときは、本機を濡らさないようにご注意ください。
結露が起きたときは、63ページの記載に従って結露を取り除いてからご使用ください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピーをおとりください。

目次

準備

基本操作

■ 撮影

■ 再生

応用操作

応用操作の前に

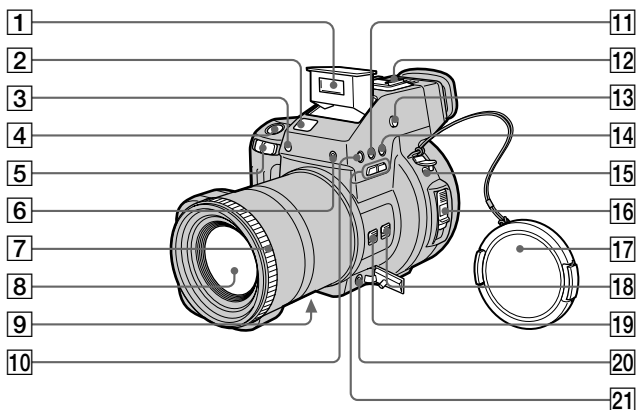
■ いろいろな撮影

■ いろいろな再生

■ 画像編集

その他

各部のなまえを確認する

使いかたの説明は、（　）内のページにあります。

1 **フラッシュ**（21）

2 **内蔵マイク**
撮影時触れないようにする。

3 **セルフタイマーランプ／録画ランプ**（20、22）

4 **シャッターボタン**（16、22）

5 **ズームレバー**（18）

6 **調光窓**
撮影時にふさがないようにする。

7 **フォーカスリング**（49）

8 **レンズ**

デジタル　インアウト
9 DIGITAL I/O**端子**（32）

プログラム　エーイー
10 PROGRAM AE**ボタン**（50）

ホワイト　バランス
11 WHITE BALANCE**ボタン**（53）

12 **アクセサリーシュー**

オープン　フラッシュ
13 OPEN（FLASH）**ボタン**（21）

14 **（ワンプッシュホワイトバランス）ボタン**（53）

15 **ϟ（外部フラッシュ）端子**

オープン
16 **ディスクカバー**OPEN**レバー**（12）

17 **レンズキャップ（付属）**

ステディ　ショット　オン　オフ
18 STEADY SHOT ON/OFF**スイッチ**（19）

フォーカス　オート　マニュアル
19 FOCUS AUTO/MANUAL **スイッチ**（49）

エーブイ　アウト　モノ
20 A/V OUT（MONO）**端子**（58）
オーディオ出力はモノラルになります。

プログラム　エーイー
21 PROGRAM AE ＋/－**ボタン**（50）

1 ![macro]（マクロ）ボタン（49）

2 ![flash]（フラッシュ）ボタン（21）

3 **ファインダー**（17）

4 **スピーカー**

5 DISPLAY（ディスプレイ）**ボタン**（20）

6 **ディスク窓**

7 **ファインダー視度調節レバー**（17）

8 VOLUME（ボリューム）＋/－**ボタン**（25）

9 **液晶画面**

10 **ストラップ取り付け部**

11 SPOT（スポット） METER（メーター）**ボタン**（52）

12 **コントロールボタン**（10、39）

13 ACCESS（アクセス）**ランプ**（16）
点灯中は振動や衝撃を与えないでください。

14 PLAY（プレイ）/STILL（スチル）/MOVIE（ムービー）**スイッチ**（16、23、39）

15 DC IN（ディーシーイン）**端子**（7、9）

16 POWER（パワー） ON（オン）/OFF（オフ）（CHG（チャージ））**ランプ**（7、10）

17 POWER（パワー）**スイッチ**（10）

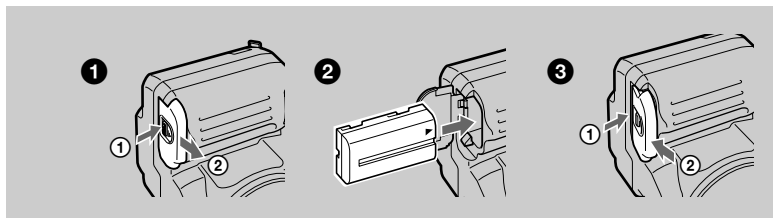
18 LCD（エルシーディー）（ON（オン）/OFF（オフ））**ボタン**（17）

19 **バッテリーカバー**/PUSH（プッシュ）**ボタン**（6）

20 **三脚用ネジ穴（底面）**
ネジの長さが6.5 mm未満の三脚をお使いください。ネジの長い三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

電源を準備する

バッテリーを本体に入れる

本機の電源には“ インフォリチウム ”バッテリー*（Lシリーズ）NP-F550（付属）を使用します。それ以外のバッテリーはお使いになれません。

❶ バッテリーカバーを開ける。

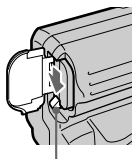
PUSHボタンを押しながら矢印の方向に開けます。

❷ バッテリーを入れる。

バッテリーの▲マークを奥にして入れます。

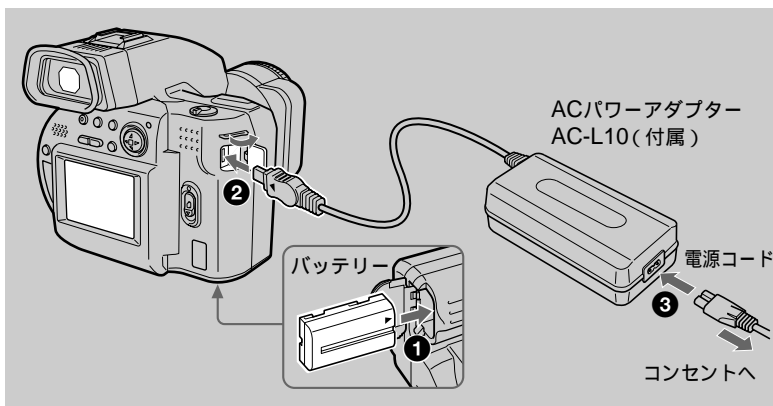
❸ バッテリーカバーを閉める。

バッテリーを取り出す

バッテリーカバーを開け、バッテリー取りはずしレバーをずらして取り出してください。
取り出すときは、バッテリーが落下しないようにご注意ください。

バッテリー取りはずしレバー

* **InfoLITHIUM L SERIES（“ インフォリチウム ”）バッテリーとは**
InfoLITHIUM L SERIES（“ インフォリチウム ”）に対応している機器とバッテリーの使用状況に関するデータ通信を行うことができるバッテリーです。本機はInfoLITHIUM L SERIES（“ インフォリチウム ”）対応です。“ InfoLITHIUM（インフォリチウム）”はソニー株式会社の商標です。

バッテリーを充電する

本機の電源が入っていると、バッテリーを充電できません。
必ず本機の電源を切っておいてください。

❶ **バッテリーを本体に入れる。**

❷ **DC IN端子カバーを開け、▲マークを液晶画面側にして、本機のDC IN端子につなぐ。**

❸ **電源コードをACパワーアダプターとコンセントにつなぐ。**

充電が始まると、POWERスイッチの上のPOWER ON/OFF（CHG）ランプがオレンジ色に点灯します。
充電が終わると、POWER ON/OFF（CHG）ランプが消えます**（実用充電）**。そのまま約1時間充電を続けると、バッテリーを若干長く使うことができます**（満充電）**。

バッテリー残量時間表示

撮影／再生できる残り時間を液晶画面またはファインダーに表示します。
使用状況や環境によっては、正しく表示されない場合があります。

オートパワーオフ機能

撮影中に本機の電源を入れたまま約3分間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れます。そのまま使いたいときは、POWERスイッチを下にずらして電源を入れ直してください。

電源を準備する（つづき）

充電時間

バッテリー	満充電時間	実用充電時間
NP-F550（付属）	約210分	約150分

使い切ったバッテリーをACパワーアダプターAC-L10で充電したときの時間です。

バッテリーの使用時間と撮影／再生可能枚数

静止画を撮影／再生するとき

バッテリー		使用時間	撮影／再生枚数
NP-F550（付属）	連続撮影時*	約100分（90分）	約1100枚（1000枚）
	連続再生時**	約120分（110分）	約1000枚（900枚）

温度25 ℃で満充電して使用したときの場合。（　）内は実用充電の場合。
画像サイズが640×480、撮影モードが通常撮影の場合。
*　約5秒ごとに撮影
** 約7秒ごとにシングル画面を順番に再生

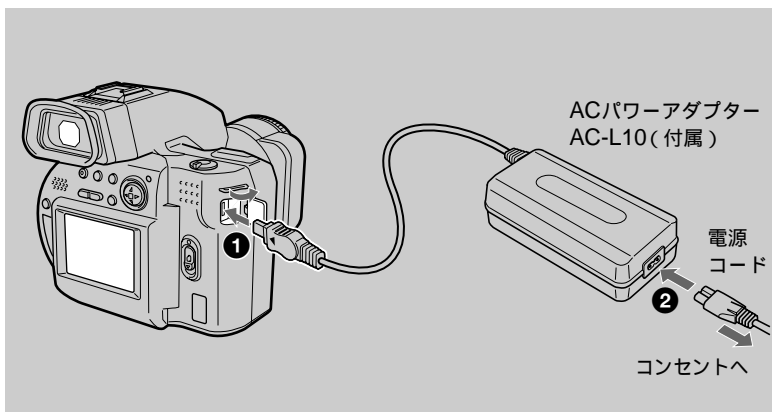
動画を撮影するとき（連続撮影時）

バッテリー	使用時間
NP-F550（付属）	約120分（110分）

温度25 ℃で満充電して使用したときの場合。（　）内は実用充電の場合。
画像サイズが160×112の場合。

ご注意

- 低温で使用したり、フラッシュを使った操作、電源の入／切、ズームを繰り返すと、使用時間は短く、撮影／再生枚数は少なくなります。
- 上記の時間と枚数は目安です。使用状況によっては、これらの数字を下回ることもあります。
- バッテリー残量表示時間が充分なのに電源がすぐ切れるときは満充電してください。
- ACパワーアダプターのDCプラグを金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。
- バッテリーは水に濡らさないでください。

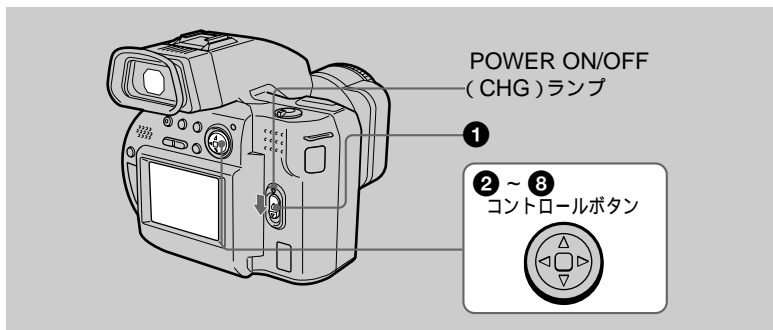
外部電源を使用する

❶ DC IN端子カバーを開け、▲マークを液晶画面側にして、本機のDC IN端子につなぐ。

❷ 電源コードをACパワーアダプターとコンセントにつなぐ。

自動車電源は
別売りのDCアダプター／チャージャーでご利用いただけます。

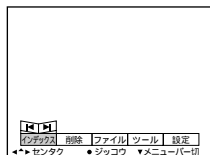
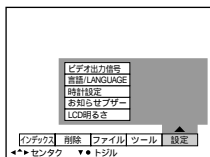
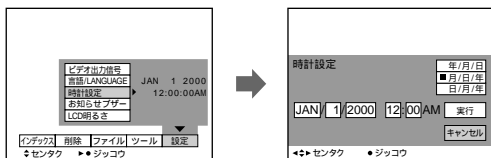
ACパワーアダプターは
コンセントの近くでお使いください。使用中、不具合が生じたときは、すぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。

日付・時刻を合わせる

本機をはじめて使うときは、日付・時刻を設定してください。設定しないと、電源を入れ、撮影状態にするたびに日付設定画面が表示されます。

❶ **POWERスイッチを矢印の方向にずらして、電源を入れる。**

POWER ON/OFF（CHG）ランプが緑色に点灯します。

❷ **コントロールボタンの▲を押す。**

メニューバーが表示されます。

❸ **コントロールボタンの▶で［設定］を選び、中央の■を押す。**

❹ **コントロールボタンの▲/▼で［時計設定］を選び、中央の■を押す。**

❺ コントロールボタンの▲/▼で年月日の表示順を選び、中央の■を押す。

［年/月/日］［月/日/年］［日/月/年］の中から選びます。

❻ コントロールボタンの◀/▶で設定する年、月、日、時、分の項目を選ぶ。

設定する項目の上下に▲/▼が表示されます。

❼ コントロールボタンの▲/▼で数値を設定して、中央の■を押す。

数値が確定され、次の項目に移ります。
手順❺で［日/月/年］を選んだときは、24時間表示で設定してください。

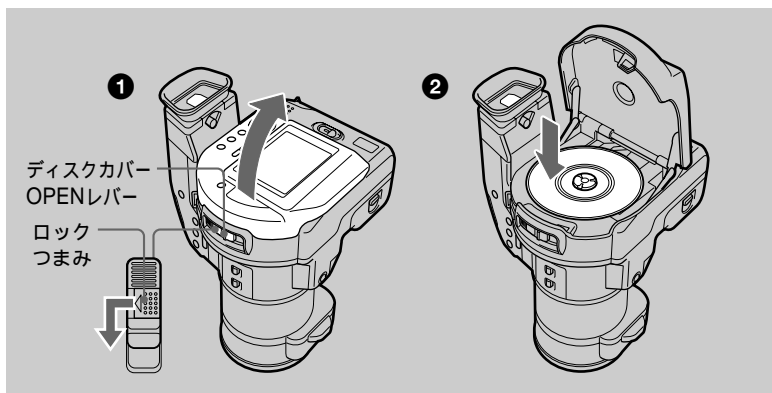
❽ コントロールボタンの▶で［実行］を選び、時報と同時に中央の■を押す。

日付・時刻が設定されます。

中止するには

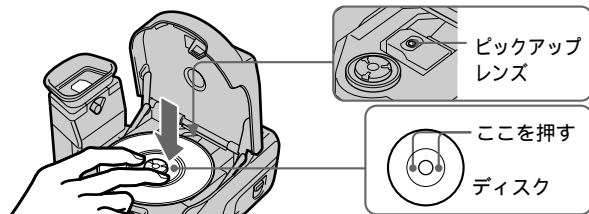
コントロールボタンの▲/▼/◀/▶で［キャンセル］を選び、中央の■を押してください。

ディスクを入れる

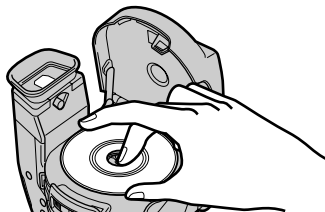
本機で使えるディスクは、右記のロゴの入った8 cmのCD-Rのみです。

❶ **ロックつまみを左側にずらしたまま、ディスクカバーOPENレバーを下にずらす。**

ディスクカバーが少し開いたら、手で持ち上げてください。

❷ **ディスクの青い面を下にしてディスクを入れる。**

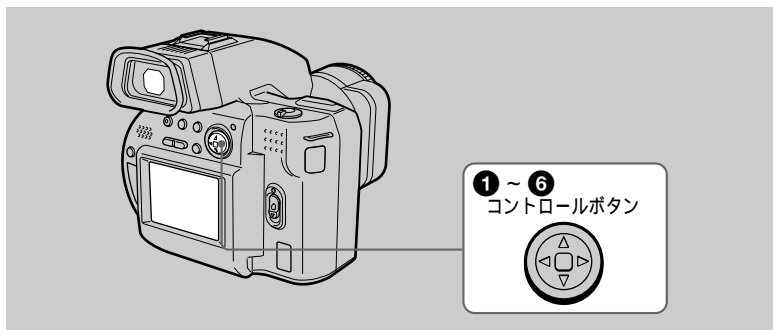
ディスクの中心を、ディスクがロックされるまで押し込みます。カチッと音がするまで押して、確実に装着してください。このとき、無理な力を加えないでください。また、ピックアップレンズに触れないように注意してください。

❸ **ディスクカバーを閉める。**

ディスクを取り出す

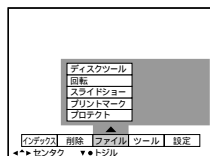
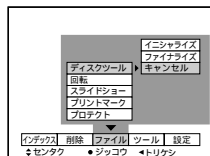
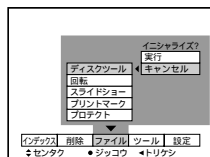
「ディスクを入れる」（前ページ）の手順❶を行い、下記のイラストのようにしてディスクを取り出してください。

ご注意

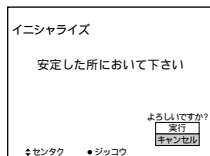
- ディスクの回転が完全に止まっていることを確認してから、ディスクを取り出してください。
- ACCESSランプが点灯しているときは、ディスクカバーを開けないでください。画像データが壊れたり、ディスクが使えなくなることがあります。

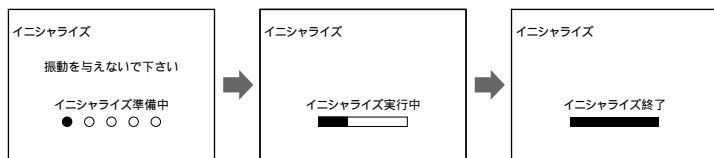
ディスクを初期化する ー イニシャライズ

本機でディスクを使用する前に必ずディスクをイニシャライズしてください。
POWERスイッチで電源を入れ、ディスクを入れておきます。

❶ **コントロールボタンの▲を押す。**

メニューバーが表示されます。

❷ **コントロールボタンの▶で［ファイル］を選び、中央の■を押す。**

❸ **コントロールボタンの▲/▼で［ディスクツール］を選び、中央の■を押す。**

❹ **コントロールボタンの▲で［イニシャライズ］を選び、中央の■を押す。**

❺ コントロールボタンの▲で［実行］を選び、中央の■を押す。

「安定した所において下さい」と表示されます。手順❻でイニシャライズを実行中は、本機に振動を与えないでください。

❻ コントロールボタンの▲で［実行］を選び、中央の■を押す。

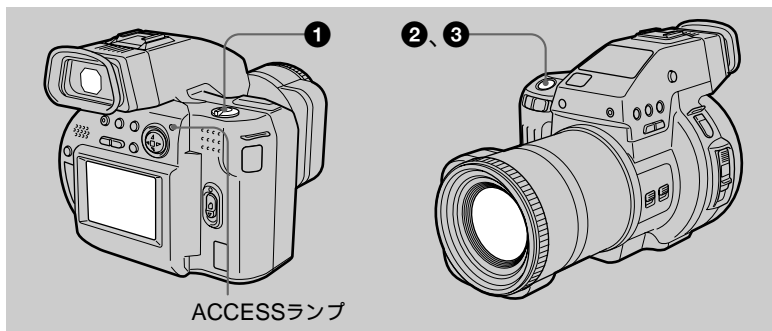
イニシャライズが始まります。

中止するには

コントロールボタンの▼で［キャンセル］を選び、中央の■を押してください。

イニシャライズについて

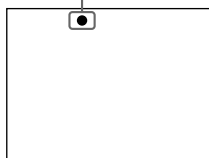
本機でディスクに画像データを記録できるようにする操作がイニシャライズです。
画像をCD-ROMドライブで読めるようにする操作（ファイナライズ）（27ページ）をした場合でも、再びイニシャライズすれば画像の追加書き込みができます。それ以前に記録した画像ファイルはそのまま残ります。

静止画を撮る

POWERスイッチで電源を入れ、ディスクを入れておきます。

❶ PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**STILL**」にする。**

❷ **シャッターを軽く押し、そのまま画像を確認する。**

●AEロック表示（緑）が点滅し、その間画像は止まります。**このときはまだ撮影されていません。**本機の自動調整*が終わると、●AEロック表示が点滅から点灯に変わります。

●AE**ロック表示が点灯すると、撮影可能になります。**
撮影を中止するときはシャッターから指を離します。

❸ **シャッターを押し込む。**

カシャッと音がして、画像がディスクに書き込まれます。
「記録中」という文字が消えたら次の撮影が可能です。

* 露出とフォーカスを自動調整します。
手動でピントを合わせているときは、
フォーカスは自動調整されません。

1**枚のディスクに記録できる枚数は**

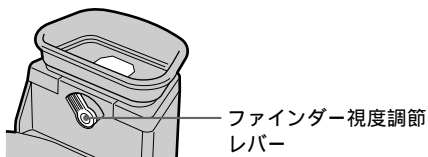
46ページをご覧ください。

ディスクに書き込み中はACCESSランプが点灯します。点灯中は、本機に振動や強い衝撃を絶対に与えないでください。また、電源を切ったり、ディスクやバッテリーを取り出したり、ディスクカバーを開いたりしないでください。画像データが壊れたり、ディスクが使えなくなることがあります。

ご注意

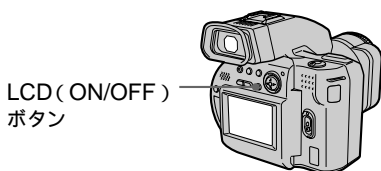
- 1度書き込んだ画像を消すことはできますが、画像を消してもディスク残量は増えません。
- 明るい被写体を撮影する場合、AEロック後に液晶画面またはファインダーの色合いが変わることがありますが、記録される画像に影響はありません。
- ディスクを交換した直後は、撮影可能になるまで約10分かかることがあります。

ファインダーで撮影する

ファインダー視度調節レバーを動かして、ファインダーの画像がはっきり見えるようにして撮影します。

ご注意

ファインダーから顔を離すと、自動的にファインダーの画面が消えます。

液晶画面を消す

LCD（ON/OFF）ボタンを押して、液晶画面を消します。バッテリーがより長持ちします。

静止画を撮る（つづき）

ご注意

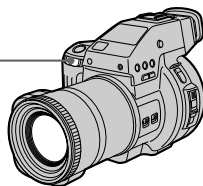
- デモンストレーションを実行中のときは（45ページ）液晶画面を消すことはできません。
- 液晶画面が消えているときにファインダーの画面も消えていると、以下のボタン、スイッチ類しか操作できません。LCD（ON/OFF）ボタン、POWERスイッチ、PLAY/STILL/MOVIEスイッチ、FOCUS AUTO/MANUALスイッチ、STEADY SHOT ON/OFFスイッチ、フォーカスリング、シャッターボタン。

液晶画面の明るさを調節する

メニューの［LCD明るさ］で調節します（45ページ）。
ディスクに書き込まれる画像の明るさには影響ありません。

最後に撮影した画像を確かめる（レビュー）

メニューバーを消し（40ページ）、コントロールボタンの◀を押すと、最後に撮影した画像が表示されます。シャッターボタンを軽く押すか、コントロールボタンの◀/▶で［戻る］を選び、中央の■を押すと、通常の撮影モードに戻ります。
また、画像を削除したいときは、コントロールボタンの◀/▶でレビュー画面上の［削除］を選んで中央の■を押してから、コントロールボタンの▲で［実行］を選んで中央の■を押すと削除することができます。ただし、画像を削除しても、ディスク残量は増えません。

ズームする

近くの被写体にピントがうまく合わないときは
ズームレバーをW側に動かして広角にし、本機を被写体に近づけて撮影してください。

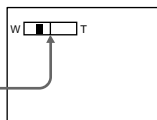
ピントを合わせるために必要な被写体までの距離は

W側：約25 cm以上

T側： 約80 cm以上

さらに近くを撮影するときは、49ページをご覧ください。

本機はデジタルズーム機能を搭載しています

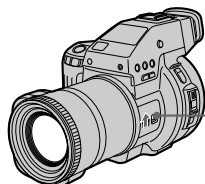
デジタルズームは、画像をデジタル処理して拡大します。ズームが10倍を超えるとデジタルズームになります。

デジタルズームを使うと

- ズーム最大倍率は20倍になります。
- 画質が低下することがあります。デジタルズームを使う必要がないときは、メニューで[デジタルズーム]を[切]にします（44ページ）。

ご注意

デジタルズームは動画撮影には使えません。

手ぶれを補正する

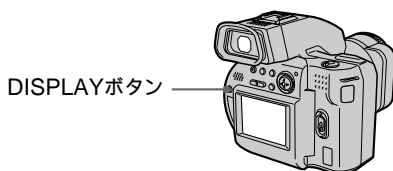
手ぶれ補正はカメラの揺れを検知して、そのぶれを補正する機能です。

STEADY SHOT ON/OFFスイッチをONにします。手ぶれ補正表示が表示されます。

ご注意

- 手ぶれ補正機能を使っていても、手ぶれが大きすぎると、補正しきれないことがあります。
- コンバージョンレンズ（別売り）を取り付けると、手ぶれの補正がききにくくなります。

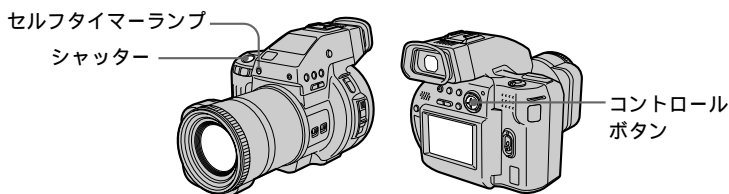
静止画を撮る（つづき）

撮影中の画面表示

DISPLAYボタンを押して、出したり消したりできます。
表示される項目について詳しくは、73ページをご覧ください。

ご注意

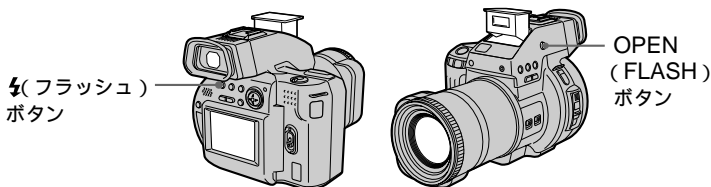
- セルフタイマー表示と応用操作での一部の表示は消すことができません。
- 画面表示は記録されません。

セルフタイマーで撮影する

セルフタイマーを使用すると、10秒後に撮影が始まります。

コントロールボタンの▲/▼/◀/▶で画面上の⏲を選び、中央の■を押します。画面に⏲（セルフタイマー）が表示され、シャッターを押してから10秒後に撮影されます。その間、セルフタイマーランプが点滅します。

フラッシュを使う

OPEN（FLASH）ボタンを押すと、フラッシュが上がり、使用可能になります。

お買い上げ時は「AUTO」（表示なし）に設定されており、周囲が暗くなると自動的に発光します。「AUTO」以外に設定するときは、⚡（フラッシュ）ボタンを繰り返し押し、希望のフラッシュ表示を出します。フラッシュが持ち上がっていないときは設定できません。

PLAY/STILL/MOVIEスイッチを「STILL」にしてください。⚡ボタンを押すたびに、以下のように表示が変わります。

（表示なし）→◉ →⚡ →Ⓢ →（表示なし）

◉「AUTO赤目軽減」：撮影前に予備発光し、目が赤く写ることを抑制します。

⚡「強制発光」：周囲の明るさに関係なく発光します。

Ⓢ「発光禁止」：発光しません。

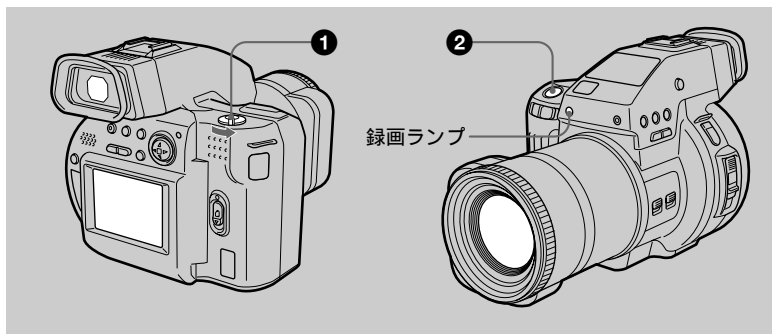
発光量は、メニューの［フラッシュレベル］で変えることができます（44ページ）。

ご注意

- フラッシュ撮影時は調光窓をふさがないでください。
- 内蔵フラッシュの推奨撮影距離は0.6 m〜2.5 mです。
- コンバージョンレンズ（別売り）をつけていると、フラッシュの光をさえぎり、レンズの影が映る（ケラレる）ことがあります。
- 外部フラッシュと内蔵フラッシュは同時に使用することができません。
- フラッシュを使ったほうが良い状況のときフラッシュが閉じていると、液晶画面またはファインダーにⓈが表示されます。
- ◉ AUTO赤目軽減では、個人差や被写体までの距離、予備発光を見ていないなどの条件により赤目の軽減効果が現れにくいことがあります。また、プログラムAEのシャッタースピード優先AEモードでシャッタースピードが遅く設定されていると、赤目軽減効果は現れにくくなります。
- 明るい場面で強制発光を使うとフラッシュ効果が得られにくいことがあります。

動画を撮る

音声つきの動画をMPEG（エムペグ）形式で撮影します。
POWERスイッチで電源を入れ、ディスクを入れておきます。

---

❶ **PLAY/STILL/MOVIEスイッチを「MOVIE」にする。**

---

❷ **シャッターを押し込む。**

「録画」と表示され、画像と音声がディスクに書き込まれます。録画中は録画ランプが点灯します。

ポンと1回押すと
5秒間録画します。
この録画時間はメニューの［記録時間］で10秒、15秒に設定できます（43ページ）。

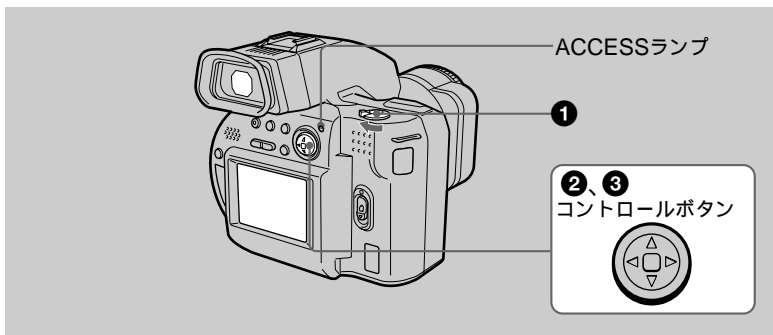
押し続けると
押し続けている間、最大60秒まで録画します。
ただし、メニューの［画像サイズ］を［320（HQ）］または［320×240］に設定したときは、録画時間は最大15秒までになります（46ページ）。

液晶画面の明るさ調節やズーム、セルフタイマーなどは

17～20ページをご覧ください。

撮影中の画面表示

DISPLAYボタンを押して、出したり消したりします。
これらの表示は記録されません。
表示される項目について詳しくは、73ページをご覧ください。

静止画を見る

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**PLAY**」にする。**

ACCESSランプが点灯し、最後に撮影した画像（静止画または動画）が表示されます。

2 **コントロールボタンの▲を押してメニューバーを表示する。**

3 **コントロールボタンで静止画を選ぶ。**

コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押して液晶画面またはファインダーに表示されている**I◀/▶I**ボタンを選び、◀/▶を押します。

I◀：前の画像を見るとき。

▶I：次の画像を見るとき。

メニューバーを表示していないときは

コントロールボタンの◀/▶で画像を選ぶことができます。

静止画再生中の画面表示

DISPLAYボタンを押して、出したり消したりします。

表示される項目について詳しくは、74ページをご覧ください。

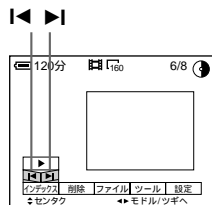
動画を見る

❶ **PLAY/STILL/MOVIEスイッチを「PLAY」にする。**

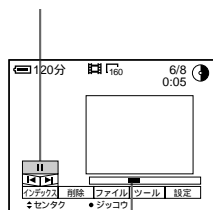
ACCESSランプが点灯し、最後に撮影した画像（静止画または動画）が表示されます。

❷ **コントロールボタンの▲を押してメニューバーを表示する。**

❸ **コントロールボタンで動画を選ぶ。**

動画は静止画よりもひとまわり小さく表示されます。
コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押して液晶画面またはファインダーに表示されているI◀/▶Iボタンを選び、◀/▶を押します。
I◀：前の画像を見るとき。
▶I：次の画像を見るとき。

❹ **液晶画面またはファインダーに表示されている▶（再生スタート）ボタンをコントロールボタンの▲/▼/◀/▶で選び、中央の■を押す。**

動画と音声が再生されます。
再生中は▶（再生スタート）ボタンが❚❚（一時停止）ボタンに変わります。

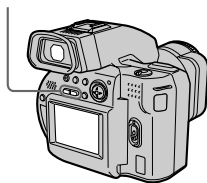
▶（再生スタート）ボタンまたは❚❚（一時停止）ボタン

再生バー

再生を一時停止するには
液晶画面またはファインダーに表示されている❚❚ボタンをコントロールボタンの▲/▼/◀/▶で選び、中央の■を押します。

メニューバーを表示していないときは
コントロールボタンの◀/▶で画像を選びます。中央の■を押すと、画像と音声が再生されます。再生中に中央の■を押すと、一時停止します。

高画質撮影した動画は
画像サイズ［320（HQ）］で撮影した動画（46ページ）は手順❸、❹で画面いっぱいに表示されます。

内蔵スピーカーの音量を調節する

VOLUME＋/－**ボタン**

VOLUME＋/－ボタンを押して調節します。

動画再生中の画面表示

DISPLAYボタンを押して、出したり消したりします。
表示される項目について詳しくは、74ページをご覧ください。

パソコンで画像を見る

本機で撮影したデータを、パソコンで見ることができます。ここでは、一般的なパソコンでの画像の見かた、およびドライバーをインストールする方法を説明します。詳しくはパソコンや、アプリケーションソフトの取扱説明書をご覧ください。

Windowsで見る場合

A CD-ROMドライブで見る（31ページ）

ディスクをファイナライズ（27ページ）してから見ます。

B USBポートで見る（31ページ）

付属のCD-ROMに入っているUSBドライバーとDirectCDをパソコンにインストールします。付属のCD-ROMに入っているDirectCDをパソコンにインストールすれば、ディスクをファイナライズしなくても見られます。詳しくは、付属のDirectCDの取扱説明書をご覧ください。

C CD-Rドライブ／CD-RWドライブで見る（35ページ）

付属のCD-ROMに入っているDirectCDをパソコンにインストールすれば、ディスクをファイナライズしなくても見られます。

Macintoshで見る場合

CD-ROMドライブで見る（36ページ）

付属のCD-ROMに入っているドライバーAdaptec UDF Volume Accessをパソコンにインストールしてから、ディスクをファイナライズして見ます。

パソコンを使用するときのご注意

ソフトウェア

- 本機で撮影したデータは以下の形式で保存されています。それぞれのファイル形式に対応したアプリケーションがパソコンにインストールされていることをご確認ください。
  静止画（テキストモード、非圧縮モード以外）：JPEG形式
  動画／音声：MPEG形式
  非圧縮モードの静止画：TIFF形式
  テキストモードの静止画：GIF形式
- アプリケーションソフトによっては、静止画ファイルを開くとファイルサイズが大きくなる場合があります。
- 付属のレタッチソフトなどを使って加工した画像をパソコンから本機に取り込む場合、画像形式が異なるためファイルエラー表示が出たりファイルが開けない場合があります。

パソコンとの通信

パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

- WindowsおよびActiveMovie、DirectShowは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- MacintoshおよびMac OS、QuickTimeは、Apple Computer, Incの商標です。
- DirectCDはAdaptec, Incの商標です。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。

CD-ROMドライブで画像を見るための準備 ー ファイナライズ

本機で記録したディスクを、パソコンのCD-ROMドライブで再生することができます。

CD-ROMドライブで画像を見るときは、メニューの［ファイナライズ］を実行してください。ファイナライズを実行していないディスクは、CD-ROMドライブで認識することができません。

ファイナライズについて

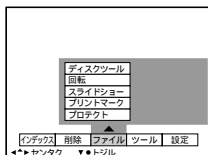
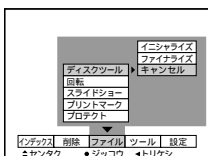
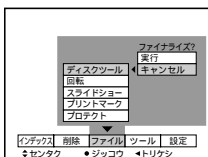
- 本機で記録した画像データを、CD-ROMドライブで読めるようにする操作がファイナライズです。
- 1度ファイナライズを実行したディスクでも、再びイニシャライズすれば、画像の追加書き込みができます。追加した画像をCD-ROMドライブで再生するには、もう1度ファイナライズする必要があります。
  ただし、ファイナライズを実行するたびにディスク容量が約13.5 MBずつ減るので、まとめてファイナライズすることをおすすめします。
- ディスクをファイナライズしないで本機から取り出しても、後でファイナライズすることができます。

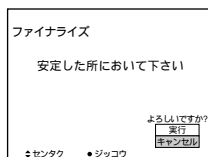
パソコンで画像を見る（つづき）

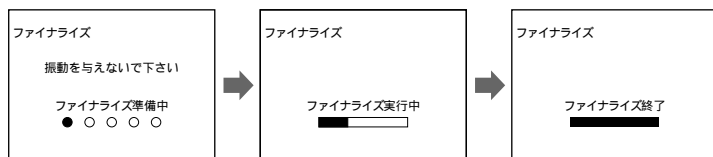
ファイナライズを実行する

❶ コントロールボタンの▲を押す。

メニューバーが表示されます。

❷ コントロールボタンの▶で［ファイル］を選び、中央の■を押す。

❸ コントロールボタンの▲で［ディスクツール］を選び、中央の■を押す。

❹ コントロールボタンの▲で［ファイナライズ］を選び、中央の■を押す。

❺ コントロールボタンの▲で［実行］を選び、中央の■を押す。

「安定した所においで下さい」と表示されます。手順❻でファイナライズを実行中は、本機に振動を与えないでください。

❻ コントロールボタンの▲で［実行］を選び、中央の■を押す。

ディスクがファイナライズされ、ディスク残量表示が◑から◑に変わります。

中止するには

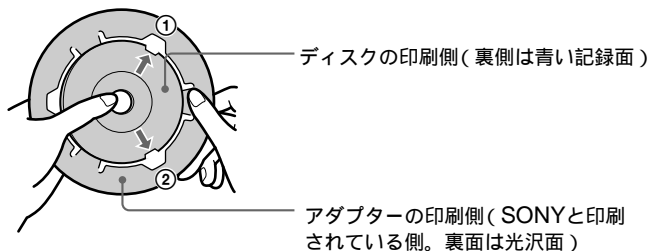
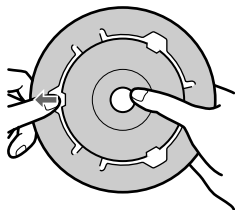
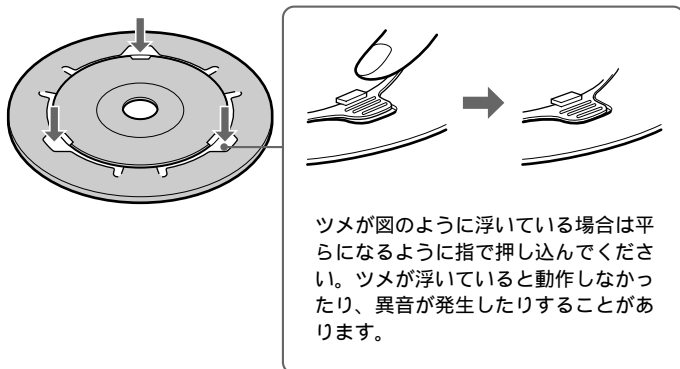
手順❹または❺、❻でコントロールボタンの▼で［キャンセル］を選び、中央の■を押してください。ファイナライズが始まると、中止することはできません。

ご注意

- ファイナライズの実行は、約1分かかります。その間は本機に振動や衝撃を与えないでください。なるべく机などの安定した場所に置いて操作してください。
- ファイナライズを実行するときは、外部電源を使用することをおすすめします（9ページ）。

付属の8 cm CDアダプターについて

ドライブが8 cm CDに対応していないとき、またはドライブが縦置きタイプのときは、付属の8 cm CDアダプターを使用してください。

❶ ①、②の順でアダプターの2つのツメにディスクを差し込む。

❷ 3つめのツメを外側に引いて、ディスクをはめる。

❸ ディスクが3つのツメの溝に正しくはまってツメがすべて平らになっていることと、ディスクがアダプターから浮いていないことを確認する。

ご注意

- ドライブによっては、付属の8 cm CDアダプターがご使用になれない場合があります。ドライブの取扱説明書をご覧ください。
- 低速回転（8倍速以下）でご使用ください。
- 直射日光が当たる場所や暖房器具の近くなど、高温の場所へは放置しないでください。
- このアダプターはマビカディスク専用です。他の8 cm CD-Rにはご使用になれません。

Windowsで画像を見る

推奨Windows環境

OS： Microsoft Windows 98、Windows 98SE
上記のOSが工場出荷時にインストールされていることが必要です
Windows 3.1、Windows 95からWindows 98へのアップグレードやWindows 98からWindows 98SEへのアップグレード環境での動作保証は致しません。

CPU：MMX Pentium 200 MHz以上

USB端子が標準で装備されていること

ActiveMovie（DirectShow）がインストールされていること（動画再生時）

ご注意

- 1台のパソコンで2つ以上のUSB接続をする場合、ならびにハブを使用する場合は動作保証できません。
- 同時に使用されるUSB機器によっては動作しません。
- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

A CD-ROMドライブで見る

ディスクをファイナライズしておきます（27ページ）。

例：Windows 98をお使いの場合

1 パソコンを起動し、ディスクをパソコンのCD-ROMドライブに入れる。

2 「マイコンピュータ」を開き、CD-ROMが認識されたドライブ（例：「(D:)」）をダブルクリックする。

3 再生したいファイルをダブルクリックする。

B USBポートで見る

付属のCD-ROMに入っているDirectCDをインストールすれば、ディスクをファイナライズしなくても見られます。
付属のUSBケーブルとCD-ROMを使って、パソコンとの間でデータのやりとりができます。

USBドライバーをインストールする

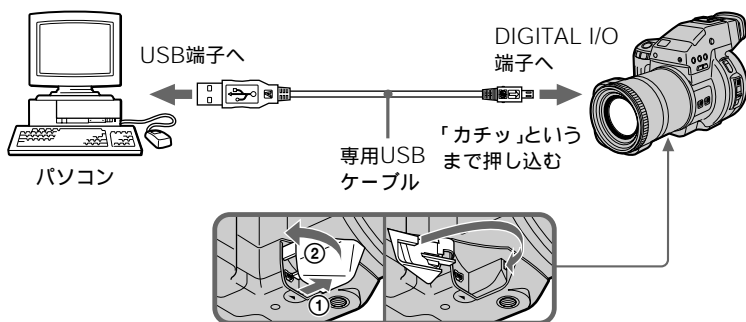
本機をパソコンに接続する前に、お手持ちのパソコンにUSBドライバーをインストールします。USBドライバーは、SPVD-001と書かれた付属のCD-ROMに収録されています。

例：Windows 98をお使いの場合

1 パソコンの電源を入れ、Windows 98を起動する。

❷ SPVD-001と書かれた付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブに入れる。

ここでDirectCDのセットアップ画面が表示される場合は、その画面の［終了］をクリックしてください。

❸ 付属の専用USBケーブルで、本機のDIGITAL I/O端子とパソコンのUSB端子を接続する。

❹ 本機にディスクを入れ、ACパワーアダプターを接続して本機の電源を入れる。

本機の液晶画面またはファインダーに「PC MODE」と表示され、パソコンからの通信待機状態になります。パソコンが本機を認識し、Windows 98のハードウェア追加ウィザードが起動します。

❺ 画面の表示にしたがってCD-ROMドライブを指定し、インストールする。

①「新しいハードウェアの追加ウィザード」の起動画面を確認し、[次へ] をクリックする。

② 検索方法の選択画面で「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、[次へ] をクリックする。

③ 検索方法の選択画面で「CD-ROMドライブ」がチェックされていることを確認し、[次へ] をクリックする。

④ ドライバーのある場所が見つかったら、[次へ] をクリックする。
ファイルのコピーが始まります。

⑤「新しいハードウェアデバイスに必要なソフトウェアがインストールされました」と表示されたら、[完了] をクリックする。

2種類のUSBドライバーをインストールするため、ハードウェア追加ウィザードは2回起動します。手順①から手順⑤の操作をもう1度繰り返してください。

基本操作
再生

パソコンで画像を見る（つづき）

画像を見る

ファイナライズしていないディスクの画像を見る場合のみ、付属のCD-ROMに入っているDirectCDをパソコンにインストールしておく必要があります。
DirectCDのインストールについては、付属のDirectCDの取扱説明書をご覧ください。

例：Windows 98**をお使いの場合**

❶ **パソコンの電源を入れ、**Windows 98**を起動する。**

❷ **付属の専用**USB**ケーブルで、本機の**DIGITAL I/O**端子とパソコンの**USB**端子を接続する。**

❸ **本機にディスクを入れ、**AC**パワーアダプターを接続して本機の電源を入れる。**

本機の液晶画面またはファインダーに「PC MODE」と表示されます。

❹ Windows 98**上で「 マイコンピュータ」を開き、新しく認識されたドライブ（例：「**CD-ROM**」）をダブルクリックする。**

ディスク内のフォルダが表示されます。

❺ 見たい画像／音声ファイルをフォルダの中から選んで、ダブルクリックする。

詳しくは「画像ファイルの保存先とファイル名について」（38ページ）をご覧ください。

再生したいファイル	この順でダブルクリックする
静止画	「Dcim」フォルダ→「100msdcf」フォルダ→画像ファイル
動画*	「Mssony」フォルダ→「Moml0001」フォルダ→画像ファイル
音声*	「Mssony」フォルダ→「Momlv100」フォルダ→音声ファイル
Eメール画像、TIFF（非圧縮）画像	「Mssony」フォルダ→「Imcif100」フォルダ→画像ファイル

* パソコンのハードディスクにコピーしてから再生することをおすすめします。ディスクから直接再生すると、画像／音声がとぎれることがあります。

本機からパソコンにデータを取り込むときは

希望のデータを選択し、任意のドライブまたはフォルダに取り込みます。

パソコンから本機にデータを取り込むときは

DirectCDをインストールすれば、希望のデータをディスクに取り込むことができます。

本機で画像を再生するためには、データのファイル名をDSC0□□□□.JPGという形式にする必要があります。詳しくは、「画像ファイルの保存先とファイル名について」（38ページ）をご覧ください。

C CD-R**ドライブ**／CD-RW**ドライブで見る**

ディスクをファイナライズしなくても、CD-Rドライブ/CD-RWドライブで見ることができます。付属のCD-ROMに入っているDirectCDをパソコンにインストールしておく必要があります。DirectCDのインストールについては、付属のDirectCDの取扱説明書をご覧ください。

Macintoshで画像を見る

推奨Macintosh環境

Mac OS 8.5.1/8.6/9.0が工場出荷時にインストールされているMacintosh
ただし、次のモデルの場合はMac OS 9.0にアップデートしてご使用ください。
- Mac OS 8.6が標準でインストールされていて、CD-ROMドライブがスロットローディングのiMac
- Mac OS 8.6が標準でインストールされているiBook、G4

QuickTime3.2以降がインストールされていること

ご注意

推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

CD-ROMドライブで見る

ディスクをファイナライズしておきます（27ページ）。SPVD-001と書かれた付属のCD-ROMに入っているドライバーAdaptec UDF Volume Accessをパソコンにインストールします。

❶ **パソコンの電源を入れ、Mac OSを起動する。**

❷ **SPVD-001と書かれた付属のCD-ROMを、パソコンのCD-ROMドライブにセットする。**

❸ **CD-ROMのアイコンをダブルクリックし、ウィンドウを開く。**

❹ **OSの入っているハードディスクのアイコンをダブルクリックし、ウィンドウを開く。**

❺ **手順❸で開いたウィンドウから、システム拡張ファイル「Adaptec UDF Volume Access」を、手順❹で開いたウィンドウの「システムフォルダ」のアイコンの上に移動する（ドラッグ・アンド・ドロップする）。**

❻ **「機能拡張フォルダに入れますか？」と表示されたら「はい」を選択する。**

❼ **パソコンを再起動する。**

画像を見る

❶ **パソコンを起動し、ディスクをパソコンのCD-ROMドライブに入れる。**

❷ **ディスクのアイコンをダブルクリックする。**

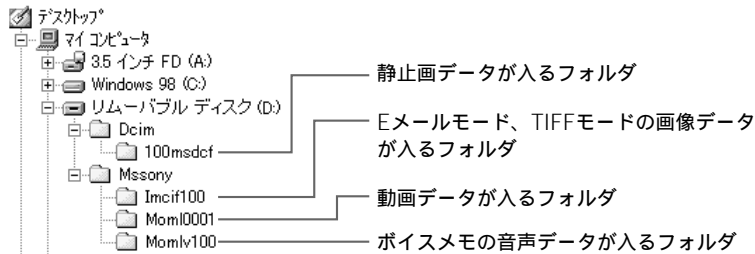
❸ **再生したいファイルをダブルクリックする。**

ソニーパーソナルコンピューターVAIOシリーズをお使いの場合

本機に付属のCD-ROMに収録されている画像処理ソフト使用時、ソフトが強制終了することがあります。また、MPEGデータを再生すると再生時間が極端に短くなることもあります。その際は下記のホームページで最新ドライバー［Sony MPEG Decoder］を入手してご使用ください。
http://www.vaio.sony.co.jp
アップデートプログラムから［Sony MPEG Decoder］を選び、ダウンロードする。

画像ファイルの保存先とファイル名について

本機で撮影した画像ファイルは、撮影モードごとにフォルダにまとめられています。ファイル名の意味は以下の通りです。□□□□には0001から9999の数字が入ります。

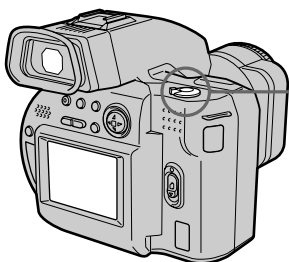
例：Windows 98（**本機が認識されたドライブはD**）

このフォルダの中にある	このファイルは	こういう意味
100msdcf	DSC0□□□□.JPG	• 通常撮影した静止画ファイル • Eメールモードで撮影した静止画ファイル（47ページ） • TIFFモードで撮影した静止画ファイル（48ページ） • ボイスメモモードで撮影した静止画ファイル（47ページ）
	TXT0□□□□.GIF	テキストモードで撮影した静止画ファイル（48ページ）
Imcif100	DSC0□□□□.JPG	Eメールモードで撮影した小サイズ画像ファイル（47ページ）
	DSC0□□□□.TIF	TIFFモードで撮影した非圧縮画像ファイル（48ページ）
Moml0001	MOV0□□□□.MPG	動画ファイル
Momlv100	DSC0□□□□.MPG	ボイスメモモードで撮影した音声ファイル（47ページ）

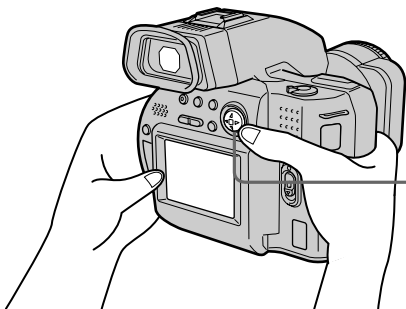
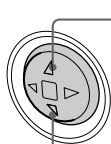
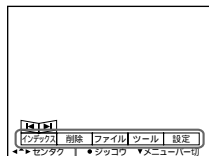
下記のファイルの数字部分は同じになります。
– Eメールモードで撮影した画像ファイルとその小サイズ画像ファイル
– TIFFモードで撮影した非圧縮画像ファイルとその画像ファイル
– ボイスメモモードで撮影した画像ファイルとその音声ファイル

応用操作の前に

ここでは、「応用操作」でよく使われるスイッチやボタンの使いかたをまとめて説明します。

PLAY/STILL/MOVIEスイッチの使いかた

静止画撮影、動画撮影、再生・編集の操作を切り換えるスイッチです。操作を始める前に、あらかじめ以下のように切り換えます。

コントロールボタンの使いかた

本機はコントロールボタンで画面上のボタンや画像、メニューを選び操作します。ここでは応用操作編でよく使われる操作方法を説明します。

画面上の操作ボタン（メニューバー）を表示／消去する

ご注意

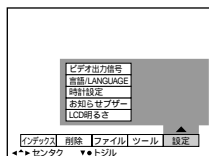
インデックス画面表示（55ページ）のとき、メニューバーを消すことはできません。

画面上の項目や画像を選択する

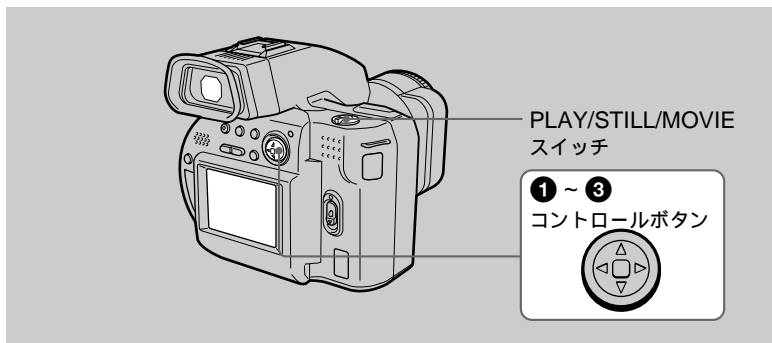
❶ コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押し、設定したい項目や表示したい画像を選ぶ。

選ばれた項目や画像の枠は青色から黄色に変わります。

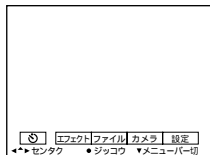
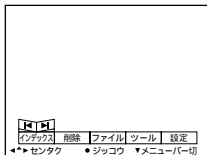
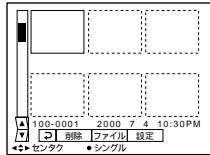
❷ コントロールボタンの中央の■を押して、決定（実行）する。

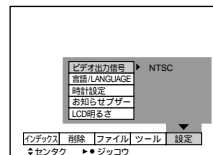
❶と❷を繰り返して各機能を操作します。

この取扱説明書の応用操作編では、上記の手順で項目を選び、実行することを「[(項目名)] を選択する」と表記しています。

メニューでの設定の変えかた

本機の応用操作の一部は、画面上に表示されるメニュー項目をコントロールボタンで選択して操作します。

❶ コントロールボタンの▲を押してメニューバーを表示する。

メニューバーはPLAY/STILL/MOVIEスイッチの設定によって、下記のように変わります。

「MOVIE」または「STILL」のとき

「PLAY」（シングル画面表示）のとき

「PLAY」（インデックス画面表示）のとき

❷ コントロールボタンの▲/▼/◀/▶で選択したい項目を選び、中央の■を押す。

各項目は、選択されると青色から黄色に変わり、コントロールボタンの中央の■を押すと、設定できる項目が表示されます。

❸ コントロールボタンの▲/▼/◀/▶で希望の設定項目を選び、中央の■を押す。

中止するには

コントロールボタンの▼を手順❶のメニューバー表示画面に戻るまで押します。メニューバーを消したいときは、もう1度押します。

設定項目の説明

PLAY/STILL/MOVIEスイッチの位置によって操作できる項目は変わります。画面には、使える項目のみが表示されます。■印はお買い上げ時の設定です。

(セルフタイマー)

セルフタイマー撮影をする（20ページ）。

エフェクト

項目	設定	意味	PLAY/STILL/MOVIEスイッチ
ピクチャーエフェクト	ソラリ モノトーン セピア ネガアート ■ 切	画像の特殊効果を設定する（54ページ）。	「MOVIE」 「STILL」
日付／時刻	日時分 年月日 ■ 切	画像に日付や時刻を挿入するかどうか設定する（54ページ）。	「STILL」

ファイル

項目-1	項目-2	設定	意味	PLAY/STILL/MOVIEスイッチ
ディスクツール	イニシャライズ	実行	ディスクを初期化（イニシャライズ）する。	「PLAY」 「STILL」 「MOVIE」
		キャンセル	中止する。	
	ファイナライズ	実行	本機でディスクに記録した画像をCD-ROMドライブで見ることができるようにする。	
		キャンセル	中止する。	
	キャンセル	ー	[イニシャライズ]または[ファイナライズ]を中止して、[ディスクツール]に戻る。	

ファイル

項目	設定	意味	PLAY/STILL/MOVIEスイッチ
タテヨコ判別	入	カメラを縦にして撮影した画像を縦に再生する。テキストモードで撮影された画像には働かない。	「STILL」
	■ 切	カメラを上向きや下向きにして撮影する場合、[切]に設定してタテヨコ判別の誤動作を防止する。	
ファイル番号	連番	ディスクを取り換えても、ファイル番号を連続して付ける。	「STILL」 「MOVIE」
	■ 標準	ディスクを取り換えるごとにファイル番号を0001から付ける。	
画像サイズ	■ 1600×1200 1600(3:2) 1024×768 640×480	静止画撮影時に画像のサイズを選ぶ。	「STILL」
	320(HQ) 320×240 ■ 160×112	動画撮影時にMPEG画像のサイズや画質を選ぶ。	「MOVIE」
撮影モード	TIFF	JPEGファイルと別に、TIFF(非圧縮)ファイルを記録する。	「STILL」
	テキスト	GIFファイルで白黒撮影する。	
	ボイスメモ	JPEGファイルと別に、音声ファイル(静止画付き)を記録する。	
	Eメール	設定されている画像サイズと別に小サイズ(320×240)のJPEGファイルを記録する。	
	■ 通常撮影	通常の撮影をする。	
記録時間	15秒 10秒 ■ 5秒	動画撮影時の記録時間を選ぶ。	「MOVIE」
回転(シングル画面のときのみ)	ー	静止画像を右回り、左回りに回転する。	「PLAY」

応用操作の前に（つづき）

ファイル

項目	設定	意味	PLAY/STILL/ MOVIEスイッチ
スライドショー（シングル画面のときのみ）	間隔設定 繰り返し スタート キャンセル	スライドショーの間隔を設定する。 ■5秒／10秒／30秒／1分 20分までスライドショーを繰り返す。 ■入／切 スライドショーを実行する。 スライドショーの設定および実行を中止する。	「PLAY」
プリントマーク	入 ■ 切	プリントしたい静止画を選ぶ（61ページ）。 静止画のプリントマークをとる。	「PLAY」
プロテクト	入 ■ 切	画像に誤消去防止指定をする（59ページ）。 画像の誤消去防止指定を解除する。	「PLAY」

カメラ

項目	設定	意味	PLAY/STILL/ MOVIEスイッチ
デジタルズーム	■ 入 切	デジタルズームを使う。 デジタルズームを使わない。	「STILL」
シャープネス	＋2〜−2	画像のシャープネスを調節する。 設定を0にしたとき以外は画面に[icon]が出る。	「STILL」
フラッシュレベル	明 ■ 標準 暗	フラッシュの発光量を通常より多くする。 通常の設定。 フラッシュの発光量を通常より少なくする。	「STILL」
EV補正	＋2.0EV〜−2.0EV	画像の明るさを調節する。	「STILL」 「MOVIE」

ツール（シングル画面のときのみ）

項目	設定	意味	PLAY/STILL/ MOVIEスイッチ
リサイズ	1600×1200 1024×768 640×480 キャンセル	撮影した静止画の画像サイズを変更する（61ページ）。	「PLAY」

設定

項目	設定	意味	PLAY/STILL/MOVIEスイッチ
デモモード	■ 入/スタンバイ 切	外部電源使用時のみ表示される項目。お買い上げ時は、[スタンバイ]に設定されている。電源を入れ、PLAY/STILL/MOVIEスイッチを「MOVIE」または「STILL」にしたまま約10分放置すると、デモンストレーションが始まる。電源を切ると終了する。もう1度始めるには、メニューで[入]を選ぶ。	「MOVIE」 「STILL」
ビデオ出力信号	■ NTSC PAL	ビデオ出力信号をNTSCモードに設定する(日本、米国など)。 ビデオ出力信号をPALモードに設定する(欧州など)。	「PLAY」 「STILL」 「MOVIE」
言語/LANGUAGE	ENGLISH ■ 日本語／JPN	メニュー項目を英語で表示する。 メニュー項目を日本語で表示する。	「PLAY」 「STILL」 「MOVIE」
時計設定	—	時計を合わせ直す(10ページ)。	「PLAY」 「STILL」 「MOVIE」
お知らせブザー	シャッター ■ 入 切	シャッターボタンを押したとき、シャッター音が鳴る。 コントロールボタン／シャッターボタンを押したときなどに、ブザー／シャッター音が鳴る。 音は鳴らない。	「PLAY」 「STILL」 「MOVIE」
LCD明るさ	▮▮▮▮▮▮▮▮▮▮	画面上の＋／－ボタンで液晶画面の明るさを調節する。	「PLAY」 「STILL」 「MOVIE」

インデックス(シングル画面のときのみ)

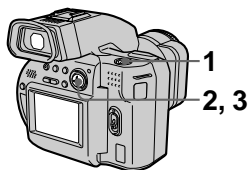
インデックス画面表示にする(55ページ)。

削除

設定	意味	PLAY/STILL/MOVIEスイッチ
実行	表示中の画像を削除する。	「PLAY」
キャンセル	削除を中止する。	

⮌(戻る)(インデックス画面のときのみ)

シングル画面表示に戻る。

画像サイズを設定する

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**STILL**」または「**MOVIE**」にする。**

2 **メニューから［ファイル］→［画像サイズ］の順に選択する。**

3 **画像サイズを選択する。**

静止画の場合：

1600×1200、1600（3:2）*、1024×768、640×480

* プリント紙のサイズ比3：2に合うように、画像を3：2で記録します。

動画の場合：

320（HQ）*、320×240、160×112

* High Quality（高画質）モード

1**枚のディスクに記録できる枚数または時間は**

画像サイズ	撮影枚数または撮影時間*
1600×1200	約160枚
1600（3:2）	約170枚
1024×768	約350枚
640×480	約1080枚
320（HQ）	約370（15）**秒
320×240	約1400（15）**秒
160×112	約5100（60）**秒

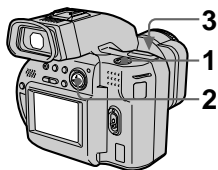
* 撮影モードが［通常撮影］の場合

** （　）内は、連続撮影時の最大記録時間

ご注意

- 1度書き込んだ画像を消すことはできますが、画像を消してもディスク残量は増えません。
- 枚数は使用状況によって減ることがあります。

Eメールに適した静止画を撮影する
– Eメールモード

静止画と同時に小サイズ（320×240）の画像を記録します。小サイズ画像はEメール添付時に便利です。

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**STILL**」にする。**

2 メニューから［ファイル］→［撮影モード］→［E**メール］の順に選択する。**

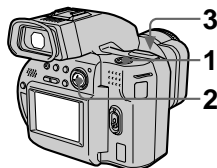
3 撮影する。

Eメールモード時、1枚のディスクに記録できる枚数は

画像サイズ	撮影枚数
1600×1200	約140枚
1600(3:2)	約150枚
1024×768	約300枚
640×480	約730枚

通常撮影モードに戻るには

手順**2**で［通常撮影］を選択します。

静止画に音声ファイルをつける – ボイスメモ

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**STILL**」にする。**

2 メニューから［ファイル］→［撮影モード］→［ボイスメモ］の順に選択する。

3 撮影する。

シャッターをポンと1回押すと
5秒間音声が記録されます。

シャッターを押し続けると
押し続けている間、最長40秒間音声が記録されます。

ボイスメモ撮影時、1枚のディスクに記録できる枚数は

画像サイズ	撮影枚数*
1600×1200	約130枚
1600(3:2)	約150枚
1024×768	約270枚
640×480	約620枚

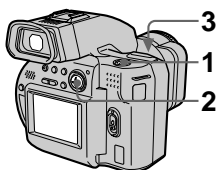
* 音声記録5秒の場合

通常撮影モードに戻るには

手順**2**で［通常撮影］を選択します。

書類などの文書を撮影する

– テキストモード

GIF（ジフ）形式でモノクロ記録します。

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**STILL**」にする。**

2 メニューから［ファイル］→［撮影モード］→［テキスト］の順に選択する。

3 撮影する。

テキストモード時、1**枚のディスクに記録できる枚数は**

画像サイズ	**撮影枚数**
1600×1200	約1370枚
1600（3:2）	約1450枚
1024×768	約1510枚
640×480	約1570枚

通常撮影モードに戻るには

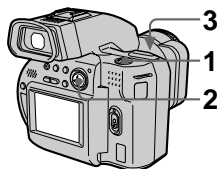
手順**2**で［通常撮影］を選択します。

ご注意

- 被写体に均等に光が当たらないと、うまく撮影できないことがあります。
- データの書き込み／読み出しに通常撮影よりも時間がかかります。
- テキストモードに設定すると、液晶画面などに映る映像はモノクロになります。

非圧縮画像を撮る

– TIFFモード

静止画をTIFF形式（非圧縮）とJPEG形式（圧縮）で同時に記録します。

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**STILL**」にする。**

2 メニューから［ファイル］→［撮影モード］→［TIFF**］の順に選択する。**

3 撮影する。

TIFF**モード時、**1**枚のディスクに記録できる枚数は**

画像サイズ	**撮影枚数**
1600×1200	約20枚
1600（3:2）	約22枚

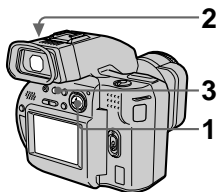
通常撮影モードに戻るには

手順**2**で［通常撮影］を選択します。

ご注意

- JPEG画像は、46ページで選ばれている画像サイズで記録されます。TIFF画像は［1600（3:2）］を選んでいるとき以外は［1600×1200］で記録されます。
- データの書き込みに通常撮影よりも時間がかかります。約40秒かかります。

被写体に接近して撮る

– マクロ撮影

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**STILL**」または「**MOVIE**」にする。**

2 FOCUS AUTO/MANUAL**スイッチを「**AUTO**」にする。**

3 **（マクロ）ボタンを押す。**

画面にが表示されます。
ズームをW側いっぱいに合わせると、約2 cmまでマクロ撮影ができます。

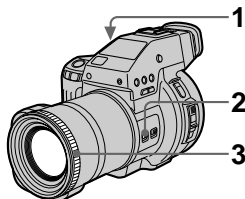
通常の撮影モードに戻すには

もう1度（マクロ）ボタンを押します。が消えます。

ご注意

- 次のプログラムAEのモードのときは、マクロ撮影ができません。
  －風景モード
  －パンフォーカスモード
- 表示が出たときは、マクロ撮影できません。

手動でピントを合わせる

通常は、自動的にピントの調節が行われています。暗いところなどで自動ピント調整が効きにくいときにこの機能を使うと便利です。

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**STILL**」または「**MOVIE**」にする。**

2 FOCUS AUTO/MANUAL**スイッチを「**MANUAL**」にする。**

手動ピント合わせ表示が表示されます。

3 **フォーカスリングを回して、ピントの合う位置に調節する。**

静止画撮影時は液晶画面またはファインダーの画像が2倍*に拡大され、フォーカス距離情報が表示されます。調節が終わると元に戻ります。

2 cm～∞（無限遠）の間で調節できます。

* デジタルズーム使用時は、2倍よりも小さくなります。

自動調節に戻すには

FOCUS AUTO/MANUALスイッチを「AUTO」に合わせます。

応用操作 いろいろな撮影

ご注意

- フォーカス距離情報は正確な距離ではありません。目安として使用してください。
- コンバージョンレンズ装着時はフォーカス距離情報が正しく表示されません。
- ズームレバーがT側にある場合、約0.8 m以内のフォーカスが正しく合わないことがあります。その場合、フォーカス距離情報が点滅します。点滅しなくなるまで、ズームレバーをW側に動かしてください。
- プログラムAEのパンフォーカスモードを選んでいるときは、手動ピント合わせはできません。

目的に合わせて撮る

ー プログラムAE

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**STILL**」または「**MOVIE**」にする。**

2 PROGRAM AE**ボタンを繰り返し押して、希望のモードの表示を出す。**

AEA アイリス（絞り）優先AE**モード**

意図的に背景をぼかして被写体を際立たせたり、近くから遠くまでピントが合うようにしたりすることができます。
PROGRAM AE+/−ボタンを繰り返し押して、F2.8からF11まで9段階の中からアイリス値を選びます。

AES シャッタースピード優先AE**モード**

意図的に、動きのある被写体の一瞬の動きや被写体の流動感を撮影することができます。
PROGRAM AE+/−ボタンを繰り返し押して、静止画のときは8"から1/500まで17段階の中から、動画のときは1/8から1/500まで11段階の中からシャッタースピードを選びます。

夜景モード
暗い場所での明るい被写体の色とびをおさえ、暗い雰囲気を損なわずに撮影することができます。

夜景プラスモード
夜景モードの機能をさらに効果的に使用することができます。

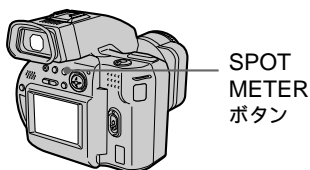
風景モード
遠景にピントを合わせることで、遠くの風景などを撮影しやすくします。

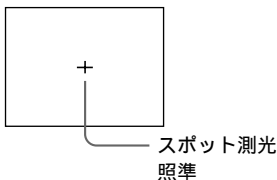
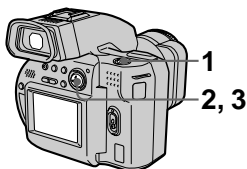
パンフォーカスモード
気軽に近くの被写体から遠くの被写体までピントを合わせることができます。

プログラムAEを解除するには
PROGRAM AEボタンを繰り返し押して、画面上のプログラムAE表示を消します。

ご注意
- 風景モードでは、遠景のみにピントが合うようにフォーカスをコントロールします。
- パンフォーカスモードでは、ズームをW側いっぱいにし、フォーカスを固定します。
- 夜景プラスモードで撮影するときは、手ぶれを防ぐため三脚の使用をおすすめします。
- 次のモードでフラッシュを使うときは、強制発光にしてください。
  ー夜景モード
  ー夜景プラスモード
  ー風景モード
- テキストモードで撮影するとき、プログラムAEは選べません。
- アイリス優先AEモード、シャッタースピード優先AEモードで設定が適正でないと、シャッターボタンを押したとき、液晶画面またはファインダーの設定値表示が点滅します。このときは再度設定し直してください。
- シャッタースピード優先AEモードでシャッタースピードが遅く設定されているときや夜景プラスモードのときは、ノイズが増える場合があります。

スポット測光モードを使う

逆光のときや被写体と背景とのコントラストが強いときに選びます。

SPOT METERボタンで全体測光、スポット測光の切り換えをする。

撮りたいポイントをスポット測光照準に合わせて撮ります。

明るさを補正する
– EV補正

1 **PLAY/STILL/MOVIEスイッチを「STILL」または「MOVIE」にする。**

2 **メニューから［カメラ］→［EV補正］の順に選択する。**

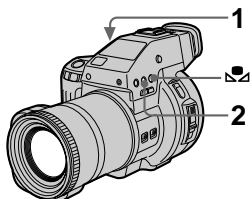
3 **補正値を選択する。**

背景の映像の明るさを確認しながら調節してください。
1/3 EVごとに＋2.0 EVから
－2.0 EVまで変えられます。

ご注意

被写体が極端に明るいときや暗いとき、およびフラッシュ使用時には、設定した補正が効かない場合があります。

自然な色合いに調節する
– ホワイトバランス

通常は、自動的にホワイトバランスの調節が行われています。

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**STILL**」または「**MOVIE**」にする。**

2 WHITE BALANCE**ボタンを繰り返し押して、ホワイトバランスの設定を選択する。**

屋内（）
- パーティー会場など照明条件が変化する場所
- スタジオなどビデオライトの下
- ナトリウムランプや水銀灯の下

屋外（）
- 夜景やネオン、花火などを撮るとき
- 日の出、日没などを撮るとき

ワンプッシュホワイトバランス（）
光源に合わせてホワイトバランスを一定の設定にするとき

オート（表示なし）
ホワイトバランスを自動調節する

（ワンプッシュホワイトバランス）モードで撮る

① WHITE BALANCEボタンを繰り返し押して、表示を選ぶ。

② 被写体を照らす照明条件と同じ所に白い紙などを置き、画面いっぱいに映す。

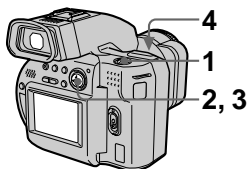
③ ボタンを押す。
表示が速い点滅に変わる。
ホワイトバランスが調整されてカメラに記憶されると、点灯に変わる。

自動調節に戻すには

手順**2**で［オート］を選択します。

ご注意

- 蛍光灯の下で撮影するときは［オート］を選択します。
- 表示について
遅い点滅：ホワイトバランスが未設定
速い点滅：ホワイトバランス調整中
点灯：ホワイトバランス設定終了
- ボタンを押しても表示が点滅から点灯に変わらない場合は［オート］で撮影します。

静止画に日付や時刻を入れる – 日付／時刻

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**STILL**」にする。**

2 メニューから［エフェクト］→［日付/時刻］の順に選択する。

3 日付・時刻の設定を選択する。

日時分
画像に日時分を挿入する。

年月日
画像に年月日を挿入する。

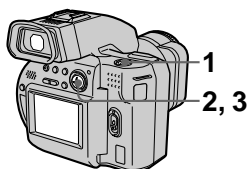
切
画像に日付・時刻を挿入しない。

4 撮影する。

撮影時には日付／時刻は画面に出ません。再生時のみ表示されます。

ご注意

手順**3**で［年月日］を選んだ場合、「日付・時刻を合わせる」（10ページ）で選んだ表示順の年月日が挿入されます。

画像に特殊効果を与える ー ピクチャーエフェクト

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**STILL**」または「**MOVIE**」にする。**

2 メニューから［エフェクト］→［ピクチャーエフェクト］の順に選択する。

3 希望のモードを選ぶ。

ソラリ
明暗をはっきりさせたイラストのように

モノトーン
白黒に

セピア
古い写真のような色合いに

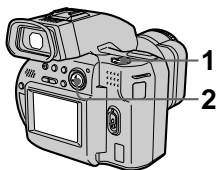
ネガアート
写真のネガフィルムのように

切
ピクチャーエフェクトを使用しない。

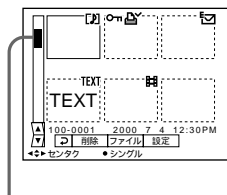
ピクチャーエフェクトを解除するには

手順**3**で［切］を選択します。

6画面表示する

– インデックス画面表示

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**PLAY**」にする。**

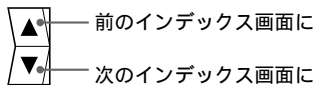
2 画面上の［インデックス］を選択する。

6枚の画像が一度に再生されます（インデックス画面）。

現在表示されている画像が全体の撮影枚数のどの部分にあたるか示す

画像の種類と設定により、次のマークが画像に表示されます。

：動画ファイル
：ボイスメモファイル
：Eメールファイル
：プリントマーク
：プロテクトマーク
TEXT：テキストモードマーク
TIFF：TIFFマーク
（表示なし）：通常撮影、マークなし

次（前）のインデックス画面を表示するには

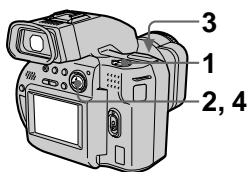
画面左下の▲/▼を選択します。

シングル（1枚表示）画面にするには

- コントロールボタンで見たい画像を選択します。
- （戻る）を選択します。

ご注意

テキストモードで撮影した画像はインデックス画面表示できません。

静止画の一部を拡大する

– 再生ズーム／トリミング

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**PLAY**」にする。**

2 **拡大したい画像を表示する。**

3 **ズームレバーで画像をお好みの大きさにする。**

ズーム倍率表示が出ます。

4 **コントロールボタンを繰り返し押して、拡大部分を選択する。**

▲：画像が下に移動します。
▼：画像が上に移動します。
◀：画像が右に移動します。
▶：画像が左に移動します。

拡大表示をやめるには

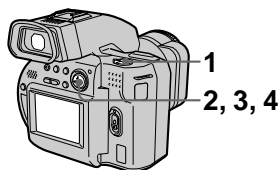
ズーム倍率表示（🔍×1.1）が消えるまで、画像を縮小するか、コントロールボタンの■を押します。

拡大した画像を記録する（トリミング）

再生ズーム後にシャッターボタンを押すと、画像が640×480サイズで記録され、拡大前の画像表示に戻ります。

ご注意

- 動画やテキストモードで撮影した画像、非圧縮画像はトリミングできません。
- ズーム倍率は画像サイズに関係なく、元の画像の5倍までです。
- トリミングした画像は画質が劣化することがあります。
- トリミングしても元の画像は残ります。
- トリミングした画像は一番新しいファイルとして記録されます。
- トリミングするとディスク残量は減ります。
- ディスク残量が少ない場合、トリミングできないことがあります。

静止画を回転させる

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**PLAY**」にする。**

2 回転させたい画像を表示する。

3 メニューから［ファイル］→［回転］の順に選択する。

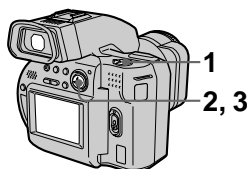
4 ↘ または ↙ で画像を回転させて、［戻る］を選択する。

ご注意

- テキストモードで撮影した画像、プロテクトされている画像、非圧縮画像は回転できません。
- 他機で撮影した画像は回転できないことがあります。
- パソコンで画像を見るとき、アプリケーションソフトウェアによっては画像の回転情報が反映されない場合があります。
- 回転を行うと、ディスク残量は減ります。
- ディスク残量が少ない場合、回転できないことがあります。

静止画を順番に再生する

– スライドショー

記録された画像のチェックやプレゼンテーションなどに便利です。

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**PLAY**」にする。**

2 メニューから［ファイル］→［スライドショー］の順に選択する。

下記の設定を選択する。

間隔設定

5秒、10秒、30秒、1分

繰り返し

入：［戻る］を選ぶまで、繰り返し再生される（約20分）。

切：すべての画像が再生されると、スライドショーは終わる。

3 コントロールボタンで［スタート］を選択する。

スライドショーが始まります。

スライドショーの設定を中止するには

手順**2**または**3**で［キャンセル］を選択します。

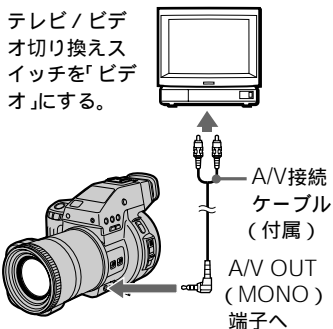
スライドショー再生中に画像を送る／戻すには

画面左下の**I◀/▶I**を選択します。

ご注意

- [間隔設定]の設定時間は、目安です。画像サイズなどにより変わることがあります。
- [繰り返し]の[入]を選んだときは、すべての画像をひととおり再生し終わるまでは、20分を超えても終了しません。

テレビで見る

テレビでディスクの画像を見ることができます。

1 **A/V接続ケーブルで本機のA/V OUT（MONO）端子とテレビのオーディオ／ビデオ入力端子を接続する。**

テレビの音声入力端子がステレオタイプのときはA/V接続ケーブルの音声用端子をLchに接続してください。

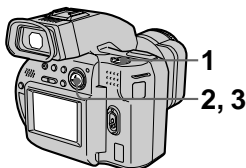
2 **テレビをつけ、本機で画像を再生する。**

テレビ画面に再生画像が映ります。

ご注意

ビデオ端子がないアンテナ入力端子だけのテレビには接続できません。

誤消去防止する
– プロテクト

プロテクト（誤消去防止）した画像にはO━┳がつきます。

シングル画面表示のとき

1 PLAY/STILL/MOVIEスイッチを「PLAY」にして、プロテクトをかけたい画像を表示する。

2 メニューから［ファイル］→［プロテクト］→［入］の順に選択する。

表示されている画像にプロテクトがかかり、O━┳が表示されます。

プロテクト指定を解除するには
手順**2**で［切］を選択します。

インデックス画面表示のとき

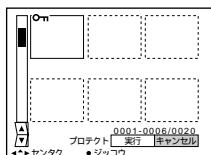
1 PLAY/STILL/MOVIEスイッチを「PLAY」にして、インデックス画面表示にする。

2 メニューから［ファイル］→［プロテクト］→［全画像］または［選択画像］の順に選択する。

3 ［全画像］を選んだときは

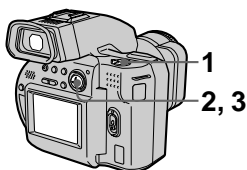
［入］を選択する。
ディスクに記録されている、すべての画像がプロテクトされます。

［選択画像］を選んだときは

プロテクトしたい画像をコントロールボタンですべて選択してから、［実行］を選択する。
選んだ画像がプロテクトされます。

プロテクト指定を解除するには
手順**2**で［全画像］を選んだときは［切］を選択します。［選択画像］を選んだときは、プロテクトを解除したい画像をコントロールボタンで選んだあと［実行］を選択します。

ご注意
- プロテクトを行うとディスク残量は減ります。
- ディスク残量が少ない場合、プロテクトできないことがあります。

画像を消す – 削除

プロテクトされた画像は削除できません。

シングル画面表示のとき

1 **PLAY/STILL/MOVIEスイッチを「PLAY」にして、削除したい画像を表示する。**

2 **メニューから［削除］→［実行］の順に選択する。**

画像が削除されます。

インデックス画面表示のとき

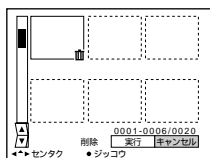
1 **PLAY/STILL/MOVIEスイッチを「PLAY」にして、インデックス画面表示にする。**

2 **メニューから［削除］→［全画像］または［選択画像］の順に選択する。**

3 **［全画像］を選んだときは**

［実行］を選択する。
プロテクトされていない画像がすべて削除されます。

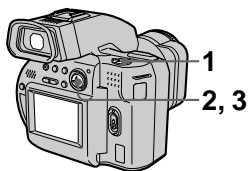
［選択画像］を選んだときは

削除したい画像をコントロールボタンですべて選択してから、［実行］を選択する。
選択した画像にはマークがつき、削除されます。

削除を中止するには

手順**2**または**3**で［キャンセル］を選択します。

ご注意

- 1度書き込んだ画像を消すことはできますが、画像を消してもディスク残量は増えません。
- 削除を行うとディスク残量は減ります。
- ディスク残量が少ない場合、削除できないことがあります。
- 削除したい画像のファイル名と下4桁が同じファイルがディスク内に存在すると、同時に削除されます。

撮影した静止画のサイズを変える – リサイズ

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**PLAY**」にして、サイズを変えたい画像を表示する。**

2 **メニューから［ツール］→［リサイズ］の順に選択する。**

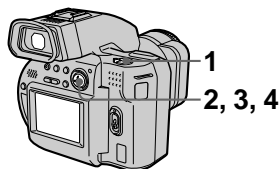
3 **変更したいサイズを選択する。**
1600×1200、1024×768、640×480
変更した画像が記録され、リサイズする前の画像表示に戻ります。

リサイズを中止するには
手順**3**で［キャンセル］を選択します。

ご注意

- 小さいサイズを大きいサイズにリサイズすると、画質が劣化します。
- リサイズした後も元の画像はそのまま残ります。
- 動画やテキストモードで撮影した画像、非圧縮画像はリサイズできません。
- リサイズした画像は一番新しいファイルとして記録されます。
- リサイズを行うとディスク残量は減ります。
- ディスク残量が少ない場合、リサイズできないことがあります。

プリントしたい静止画を選ぶ – プリントマーク

撮影した静止画の中からプリントしたい画像を指定することができます。DPOF（Digital Print Order Format）規格に対応しているお店で画像をプリントするときなどに便利です。

シングル画面表示のとき

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**PLAY**」にして、プリントしたい画像を表示する。**

2 **メニューから［ファイル］→［プリントマーク］→［入］の順に選択する。**
表示されている画像に🖨（プリント）マークがつきます。

プリントマークを消すには
手順**2**で［切］を選択します。

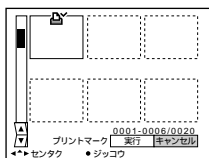
インデックス画面表示のとき

1 PLAY/STILL/MOVIE**スイッチを「**PLAY**」にして、インデックス表示画面にする。**

2 **メニューから［ファイル］→［プリントマーク］→［選択画像］の順に選択する。**

3 **プリントマークをつけたい画像をコントロールボタンで選択する。**

4 **［実行］を選択する。**

（プリント）マークが緑色から白色に変わります。

プリントマークを消すには

手順**3**でプリントマークを消したい画像をコントロールボタンで選び、［実行］を選択します。

すべての画像のプリントマークを消すには

メニューから［ファイル］→［プリントマーク］→［全画像］→［切］の順に選択します。

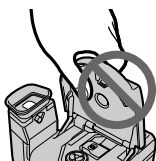
すべての画像の（プリント）マークが消えます。

ご注意

- 動画とテキストモードで撮影した画像にプリントマークをつけることはできません。
- プリントマークをつけると、ディスク残量は減ります。
- ディスク残量が少ない場合、プリントマークをつけられないことがあります。

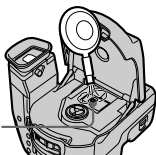
使用上のご注意

本機の取り扱いについて

ディスクカバーを持って本機を運ばない

回転中のディスクに手を触れない

けがをするおそれがあります

ピックアップレンズのお手入れについて

ピックアップレンズが汚れて本機が正常に動作しなくなったときは、市販のブロアーを使ってクリーニングしてください。

お手入れについて

液晶画面やファインダーをきれいにする

液晶画面やファインダーに指紋やゴミがついて汚れたときは、別売りの液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。

表面のお手入れについて

水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください 。

海岸やほこりの多い場所で使ったあとは

カメラをよく清掃してください。潮風で金属が腐食したり、砂ぼこりが内部に入ったりすると故障の原因になります。

動作温度について

本機の動作温度は約0 ℃～40 ℃です。動作温度範囲を越える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、「ディスクエラー」と表示され、故障の原因になります。

結露が起こりやすいのは

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき、など。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖い所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからご使用ください。特にカメラのレンズの内側についた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

ピックアップレンズについて

本機のピックアップレンズ（ディスクカバーの内側）に触れないでください。また、ほこりがつかないようにディスクを出し入れするとき以外はディスクカバーを閉じておいてください。

バッテリーについて

- バッテリーは防水構造ではありません。水などに濡らさないようにご注意ください。
- バッテリーを長期間使用しない場合でも、機能を維持するために、1年に1回程度満充電にして、本機で使い切ってから保管してください。
- バッテリーは湿度の低い、涼しい場所で保管してください。

内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入／切に関係なく保持するために充電式ボタン電池を内蔵しています。
充電式ボタン電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し半年程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。

充電方法

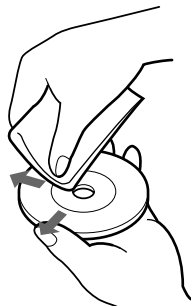
本機をACパワーアダプターを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源を切った状態にして24時間以上放置する。

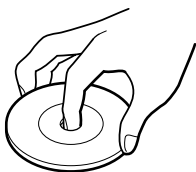
ディスクの取り扱い上のご注意

ディスクは、8 cmCD-Rをお使いください。本機に対応していないディスクに画像を書き込んだり読み込んだりすることはできません。

お手入れについて

ディスクのお手入れ

- データを記録する前にディスクをクリーナーで拭かないでください。ほこりなどの汚れは、ブロアーを使って吹き飛ばしてください。
- ディスクの青い信号記録面に指紋やほこり、水滴、油などが付着したり、傷がついたりすると、正しいデータを記録できないことがあります。取り扱いには充分ご注意ください。
- ディスクが汚れたときは、乾いた柔らかい布またはエチルアルコールを少量付けた柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭き取ってください。CDクリーナーもご使用になれます。
  ベンジン、シンナー、静電気防止剤、LPクリーナーなどは使用しないでください。

ご注意

- データの読み込み中、書き込み中にはディスクを取り出さないでください。
- 以下の場合、データが壊れることがあります。
  - 読み込み中、書き込み中にディスクを取り出したり、本機の電源を切った場合
  - 静電気やノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- ディスクにはラベルなど、粘着性のあるものを貼らないでください。回転ムラが生じ、故障の原因になります。
- タイトルなどが記入できるのは白色のレーベル面だけです。ボールペンなどの先の硬いものは避け、油性フェルトペンで記入し、インクが乾くまでは触れないでください。加熱による乾燥は避けてください。
- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。記録面(青い面)には触れないでください。

- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- ディスクの外周部をこすったり、強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- CD-ROMドライブなどの再生機に未記録の状態でかけると誤動作を起こしたり、ディスクを傷つけたりする場合があります。

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう1度点検してみましょう。それでも正常に動作しないときは、デジタルスチルカメラテクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。**液晶画面またはファインダーに「C：□□：□□」のような表示が出たときは自己診断表示機能が働いています。**70**ページをご覧ください。**

症状	原因	処置
操作を受け付けない。	“インフォリチウム”以外のバッテリーを使用している。	“インフォリチウム”バッテリーを使う（6ページ）。
	ディスクが正しく入っていない。	ディスクを正しく入れる（12ページ）。
	バッテリーが残り少ない（表示が出る）。	バッテリーを充電する（7ページ）。
	ACパワーアダプターがしっかり差し込まれていない。	DC IN端子とコンセントにしっかり差し込む（7、9ページ）。
	内部システムの誤動作。	電源を切り、1分後に電源を入れて、正しく動作するか確認する。
撮影ができない。	PLAY/STILL/MOVIEスイッチが「PLAY」になっている。	「STILL」または「MOVIE」にする（16、22ページ）。
	ディスクが入っていない。	ディスクを入れる（12ページ）。
	ディスクがイニシャライズされていない。	ディスクをイニシャライズする（14ページ）。
ノイズが入る。	テレビなど強い磁気を帯びたものの近くに置いている。	テレビなどから離して置く。
画像が暗い。	逆光になっている。	画像の明るさを調節する（52ページ）。
	液晶画面が暗い。	液晶画面の明るさを調節する（18ページ）。
フラッシュ撮影ができない。	設定がになっている。	（表示なし）または、に設定する（21ページ）。
	プログラムAEの「夜景」または「夜景プラス」、「風景」モードになっている。	解除する（50ページ）。 またはに設定する（21ページ）。
	PLAY/STILL/MOVIEスイッチが「MOVIE」になっている。	「STILL」にする。
	フラッシュが上がっていない。	フラッシュを上げる（21ページ）。

症状	原因	処置
正しい撮影日時が記録されない。	日付・時刻を合わせていない。	日付・時刻を合わせる（10ページ）。
明るい被写体を写すと、縦に尾を引いた画像になる。	スミアという現象。	故障ではない。
バッテリーの消耗が早い。	温度が極端に低いところで撮影／再生している。	故障ではない。
	充電が不充分。	充分に充電する。
	バッテリーそのものの寿命。	新しいバッテリーと交換する。
バッテリーの残量表示が正しくない。	温度が極端に高いまたは低いところで長時間使用している。	ー
	バッテリーそのものの寿命。	新しいバッテリーと交換する（6ページ）。
	バッテリーが消耗している。	充電されたバッテリーを取り付ける（6、7ページ）。
バッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。	ー	満充電する（7ページ）。
ズームが効かない。	プログラムAEの「パンフォーカス」モードになっている。	解除する（50ページ）。
デジタルズームが効かない。	動画撮影中はデジタルズームが使えない。	故障ではない。
画像が白黒になっている。	テキストモードになっている。	解除する（48ページ）。
	ピクチャーエフェクトの「モノトーン」モードになっている。	解除する（54ページ）。
パソコンのCD-ROMドライブで再生できない。	ディスクがファイナライズされていない。	ディスクをファイナライズする（27ページ）。
	画像記録中の振動などでエラーが発生した。	ディスクを本機に入れて、USB接続すれば再生できる場合があります。
	CD-ROMドライブがパケットライトに対応していない。	パソコンメーカーまたはCD-ROMドライブメーカーにお問い合わせください。
	ー	パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

その他

症状	原因	処置
画像を消去できない。	ディスクがイニシャライズされていない。	ディスクをイニシャライズする(14ページ)。
	ディスク残量がない。	故障ではない。
	プロテクトされている。	解除する(59ページ)。
電源が途中で切れる。	PLAY/STILL/MOVIEスイッチを「STILL」または「MOVIE」にしたまま、なにも操作をしない状態が3分以上続くと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れる。	電源を入れる。
	バッテリーが消耗している。	充電されたバッテリーを入れる。
テレビに画像が出ない。	本機の[ビデオ出力信号]の設定が正しくない。	設定を変える(45ページ)。
スライドショーが自動的に止まる。	スライドショーは約20分で止まる。	続けるときはもう1度[スタート]を選択する(57ページ)。
プログラムAEにならない。	テキストモードになっている。	解除する(48ページ)。
(マクロ)ボタンが効かない。	手動フォーカスになっている。	解除する(49ページ)。
	プログラムAEの「パンフォーカス」モードになっている。	解除する(50ページ)。
リサイズができない。	動画とテキスト画像、非圧縮画像はリサイズできない。	―
プリントマークがつかない。	動画とテキスト画像にはプリントマークをつけることができない。	―
パソコンとUSB接続ができない。	バッテリーが残り少ない。	ACパワーアダプターを使用してください(9ページ)。
	本機の電源が入っていない。	電源を入れる。
	USBケーブルがしっかり差し込まれていない。	一度パソコンと本機からケーブルを抜いて、しっかりと差し込み、「PC MODE」になっていることを確認する(32ページ)。
	パソコンのUSB端子に本機の他に機器が接続されている。	キーボード/マウス以外は取りはずしてみてください。
外部フラッシュ(別売り)使用時にシャッターが切れない。	外部フラッシュのバッテリーが消耗している。	外部フラッシュのバッテリーを新しいものと交換するか、外部フラッシュをはずしてください。

警告表示について

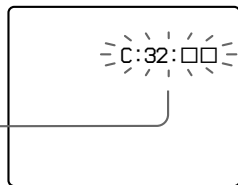
液晶画面またはファインダーには次のような表示が出ます。説明にしたがいチェックしてください。

表示	意味
ふたが開いています	ディスクカバーが開いている。
ディスクがありません	ディスクが入っていない。
ドライブエラー	ディスクまたはCD-Rドライブの異常。
ディスクエラー	本機では使えないディスクが入っている。
	ディスクが壊れている。
	結露が起きている。
ディスクがプロテクトされています	パソコンでプロテクトされたため、記録ができない。
ディレクトリーエラー	同じディレクトリーが存在する。
ディスクの残量が充分ではありません	ディスクの容量がいっぱいでファイナライズしかできない。
イニシャライズされていません	イニシャライズされていないため記録できない。
イニシャライズされています	すでにイニシャライズされているので、イニシャライズする必要はない。
ファイナライズされています	すでにファイナライズされているので、ファイナライズする必要はない。
ファイルがありません	画像が記録されていない。
ファイルエラー	画像再生時の異常。
画像サイズオーバーです	本機で再生できるサイズより大きい画像を再生しようとした。
無効な操作です	本機以外で作成したファイルを再生しようとしている。
ファイルがプロテクトされています	画像に誤消去防止がかけられている。
“インフォリチウム”バッテリーを使ってください	“インフォリチウム”対応以外のバッテリーを使っている。
バッテリーの残量が充分ではありません	バッテリーの残量が少ないためイニシャライズ・ファイナライズできない。
⌁	バッテリーの残量がない。

自己診断表示 ー アルファベットで始まる表示が出たら

本機には自己診断機能がついています。これは本機に異常が起きたときに液晶画面またはファインダーにアルファベットと4桁の数字でお知らせする機能です。表示によって、異常の内容が分かるようになっています。

詳しくは以下の表をご覧になり、各表示に合った対応をしてください。

表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。

自己診断表示

- 「C:□□:□□」
  お客さま自身で正常な状態に戻せる内容
- 「E:□□:□□」
  デジタルスチルカメラテクニカルインフォメーションセンターに相談していただく内容

表示	原因	対応のしかた
C:32:□□	ディスクドライブの異常。	電源を入れ直す。
C:13:□□	本機では使えないディスクを入れた。 データが壊れている。	ディスクを交換する。（12ページ）
E:61:□□ E:91:□□	お客さま自身では対応できない異常が起きている。	デジタルスチルカメラテクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。その際は、サービス番号5桁をすべてお知らせください。 例：E:61:10

お客様ご自身で対応できる場合でも、2、3度繰り返しても正常に戻らないときは、デジタルスチルカメラテクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

主な仕様

システム

撮像素子
1/2.7型　カラーCCD
レンズ
10倍ズームレンズ
f＝6.0～60.0 mm
（35 mmカメラ換算では39～390 mm）
F2.8
露出制御
自動
ホワイトバランス
自動、屋内、屋外、ワンプッシュ
データ圧縮方式
動画　MPEG1
静止画　JPEG
GIF（テキストモード）、TIFF
音声（静止画付き）
MPEG AUDIO（モノラル）
記憶媒体
8 cm CD-R
フラッシュ
推奨撮影距離 0.6 m ～ 2.5 m

ドライブ

データ伝送レート
書き込み：×4倍速
読み出し：最大×8倍速
再生記録読み取り方式
非接触光学読み取り（半導体レーザー使用）
レーザー
波長：777～787 nm
NA：0.5
最大出力：23 mW
連続発光時間：600 ns

入／出力端子

A/V OUT（MONO）端子（モノラル）
ミニジャック
映像：1 Vp-p、75 Ω不平衡、同期負
音声：327 mV（47 kΩ負荷時）
出力インピーダンス：2.2 kΩ
DIGITAL I/O（USB）端子
特殊小型ミニジャック
外部フラッシュ端子
ミニジャック

液晶画面

液晶パネル
TFT（薄膜トランジスタアクティブマトリックス）駆動
画面サイズ
2.5型
総ドット数
123 200（560×220）ドット

ファインダー

液晶パネル
TFT（薄膜トランジスタアクティブマトリックス）駆動
総ドット数
180 000（800×225）ドット

電源・その他

使用バッテリー
NP-F550
電源電圧バッテリー端子入力
8.4 V
消費電力（撮影時）
4.9 W（液晶画面使用時）
4.5 W（ファインダー使用時）
動作温度
0 ℃ ～ ＋40 ℃
保存温度
–20 ℃ ～ ＋60 ℃
最大外形寸法
137×131×212 mm（幅×高さ×奥行）
本体質量
約990 g（バッテリーNP-F550、ディスク、レンズキャップなど含む）
内蔵マイクロホン
エレクトレットコンデンサマイクロホン
内蔵スピーカー
ダイナミックスピーカー

ACパワーアダプター

AC-L10
電源
AC100～240 V、50/60 Hz
定格出力
DC8.4 V、1.5 A
動作温度
0 ℃～＋40 ℃
保存温度
–20 ℃～＋60 ℃
最大外形寸法
125×39×62 mm（幅×高さ×奥行き）
本体質量
約280 g

バッテリーNP-F550

使用電池
リチウムイオン蓄電池
最大電圧
DC8.4 V
公称電圧
DC7.2 V
容量
10.8 Wh（1500 mAh）

付属品

ACパワーアダプター（1）
電源コード（1）
バッテリーパックNP-F550（1）
AV接続ケーブル（1）
専用USBケーブル（1）
8 cm CDアダプター（1）
マビカディスク（5）
ショルダーストラップ（1）
レンズキャップ（1）
レンズキャップ用ひも（1）
アプリケーション／ドライバー用CD-ROM（3）
取扱説明書（3）
安全のために（1）
保証書（1）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、デジタルスチルカメラやディスクなどの不具合などにより記録、再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このデジタルスチルカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

"故障かな？と思ったら"の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは

デジタルスチルカメラテクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社はデジタルスチルカメラの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、デジタルスチルカメラテクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

部品の交換について

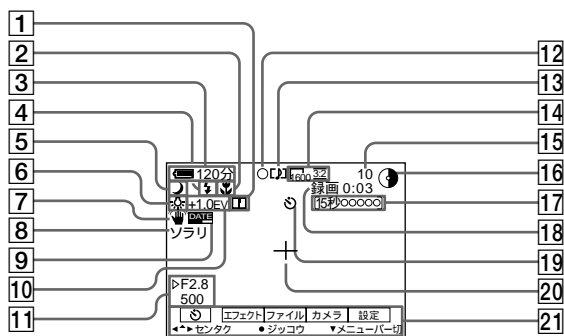
この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際交換した部品はご同意をいただいた上で回収させていただきますので、ご協力ください。

海外で使うとき

本機は外国でもお使いになれます

付属のACパワーアダプターAC-L10はAC 100 V ～ 240 V・50/60 Hzの広範囲な電源でお使いいただけます。
ただし、電源コンセントの形状の異なる国または地域では、電源コンセントに合った変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。

画面表示

撮影時

1 **シャープネス表示**

2 **マクロ表示／手動ピント合わせ表示**

3 **バッテリー残量表示**

4 **フラッシュレベル表示／フラッシュモード表示**

5 **プログラム AE表示**

6 **ホワイトバランス表示**

7 **手ぶれ補正表示**

8 **ピクチャーエフェクト表示**
これらの表示は操作時のみ表示されます。

9 **日付／時刻表示**

10 **EV補正表示**

11 **アイリス/シャッタースピード表示**

12 **AE/フォーカスロック表示**

13 **撮影モード表示**

14 **画像サイズ表示**

15 **撮影枚数表示**

16 **ディスク残量表示**
ディスクをファイナライズすると表示が に変わります。

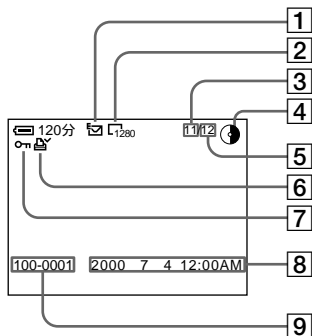
17 **動画／VOICE録画時間表示**

18 **自己診断表示／記録時間表示**

19 **セルフタイマー表示**

20 **スポット測光照準**

21 **メニューバー／ガイドメニュー**
コントロールボタンの▲を押すと表示されます。▼を押すと消えます。

静止画再生時

1 記録された画像の種類表示

2 画像サイズ表示

3 画像番号

4 ディスク残量

5 ディスク記録枚数

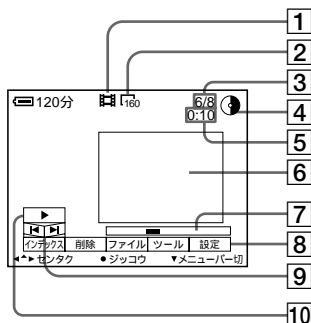
6 プリントマーク

7 プロテクト表示

8 画像の記録日時表示*

9 ファイル名*

* メニューバーを表示しているときは消えます。

動画再生時

1 記録された画像の種類表示

2 画像サイズ表示

3 画像番号／ディスク記録枚数

4 ディスク残量

5 カウンター

6 再生画像

7 再生バー

8 メニューバーとガイドメニュー

9 画像送りボタン

10 再生スタート／一時停止ボタン
▶：停止中
❚❚：再生中

索引

その他

デジタルスチルカメラ

MVC-CD1000

カスタマー登録のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

ソニーではデジタルスチルカメラをお買い上げの皆様へのサポートをより充実させていくため、お客様に「カスタマー登録」をお勧めしています。
詳しくは同梱の「デジタルスチルカメラ カスタマーご登録のお勧め」をご覧ください。

カスタマー登録に関する問い合わせ
ソニーマーケティング（株）
　カスタマー専用デスク
電話：　**03-3584-6651**
受付時間：月～金曜日　午前10時～午後6時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お問い合わせ窓口のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

■デジタルイメージングカスタマーサポート
デジタルスチルカメラとパソコンの接続方法や、最新サポート情報をご案内するホームページです。
http://www.sony.co.jp/support-di/

■テクニカルインフォメーションセンター
ご使用上での不明な点や技術的なご質問のご相談、および修理受付の窓口です。
電話：　**0564-62-4979**
受付時間：月～金曜日　午前9時～午後5時
（ただし、年末、年始、祝日を除く）

D-Imaging World (デジタルイメージングワールド)
デジタルスチルカメラやハンディカムを楽しく使っていただくためのホームページです。
http://www.sony.co.jp/di-world/

Sony online
http://www.world.sony.com/
「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35
Printed in Japan

この説明書は再生紙を使用しています。
VOC（揮発性有機化合物）1%以下植物油インキ使用